山形県山形市埋蔵文化財調査報告書第16集

K－735

吉原Ⅱ遺跡

第3次発掘調査報告書

2003

株式会社ニラク
山形市教育委員会

吉原（よしはら）Ⅱ（に）遺跡

第3次発掘調査報告書

平成15年3月

株式会社ニラク
山形市教育委員会

序

本報告書は、平成14年度に実施された吉原Ⅱ遺跡の第３次発掘調査の成果をまとめたものです。

吉原Ⅱ遺跡は平成８年度に新しく確認された遺跡です。このたびの第３次発掘調査により、平安時代のものと考えられる柱穴や溝跡が検出されました。発掘調査の実施によって、当時の生活を物語る貴重な資料を得ることができました。

山形市内には、国指定史跡の「山形城跡」や「嶋遺跡」をはじめ、約300箇所の遺跡が確認されております。これらの遺跡は、山形市の歴史や文化を正しく理解する上で、欠くことのできない市民共有の財産となっています。

近年は市内各地区において様々な開発事業が進められており、埋蔵文化財保護を目的とした調整の結果、発掘調査に至る事例が多くなっています。吉原Ⅱ遺跡の発掘調査もそのような開発事業との調整の中で、遺跡の記録保存を目的として行われました。

本書が埋蔵文化財についての保護啓蒙のために、皆様の地域史探求の一助としてご活用いただければ、誠に幸いであります。

最後になりましたが、調査にあたって埋蔵文化財の保護に特段のご理解をいただき、発掘調査に多大なご協力をいただきました株式会社ニラクや工事関係者の皆様、並びに関係各位に厚く御礼申し上げます。

平成15年３月

山形市教育委員会
教育長　相田良一

例　言

1　本書は株式会社ニラクの店舗建設事業に係る「吉原Ⅱ遺跡」の第３次発掘調査報告書である。

2　調査は株式会社ニラクの依頼により、山形市教育委員会が実施した。

3　調査要項は下記の通りである。

遺　跡　名　吉原Ⅱ遺跡（よしはらにいせき）　　所　在　地　山形県山形市三つ江地内

調 査 主 体　株式会社ニラク　　調査実施機関　山形市教育委員会

調 査 期 間　平成14年６月27日～７月31日（現場調査）

平成14年８月５日～平成15年３月31日（整理作業）

調査担当者　教育委員会社会教育課

課　　長　柳橋幸男　　**発掘・整理調査担当**

課 長 補 佐　江川　隆　　文化財保護係主事　須藤英之・國井　修

文化財保護係長　小野　徹　　臨　時　職　員　小野幸寛

〃　主任　武田和宏

4　本書の作成・執筆・編集は須藤英之が担当し、挿図作成において小野幸寛がこれを補佐した。

5　調査及び本書を作成するにあたり、以下の関係諸機関より御協力・御指導を得た。記して感謝申し上げる。(敬称略)太陽建設株式会社　山形市立第十中学校　齋藤　健　村木志伸　(財)山形県埋蔵文化財センター

6　現場調査・整理作業にあたっては、以下の方々から御協力いただいた。記して感謝申し上げる。(敬称略)大貫文義　小野政雄　片桐長作　木村澄子　三部秋夫　白田　敬　鈴木清志　丹野一郎　戸田長生　土門 弘　中村達久　布施哲二郎　町田雅樹　渡辺ふじえ(現場調査)　伊藤桂子　木村澄子　武田昌子　深瀬美貴子　渡辺ふじえ(整理作業)

7　出土遺物・調査記録類については、山形市教育委員会社会教育課が一括保管している。

凡　例

1　本書で使用した遺構・遺物の分類記号は以下の通りである。

SB…掘立柱建物跡　SD…溝跡　SK…土坑　SP…柱穴　SX…性格不明遺構　TP…調査地点番号

2　遺構番号は、現地調査段階での番号を報告書中においても踏襲した。

3　遺跡概要図・遺構配置図・遺構実測図中の方位は真北を示している。

4　遺構実測図は1/40・1/80の縮図で採録し、各々スケールを付した。

5　遺物実測図・拓影図は1/3の縮図で採録し、各々スケールを付した。

6　遺構実測図中の水糸レベルについては各図毎に統一して記載した。単位はmである。

7　土層観察においては、基本層序はローマ数字で、遺構覆土についてはアラビア数字で表している。

8　遺物実測図中の土器については断面黒ベタが須恵器、断面白抜きが土師器、網点は施釉陶器を表す。

9　遺構観察表中において、(　)内数値は図面上の推計値を示す。単位はcmを使用している。

10　遺物観察表中において、(　)内数値は図上復元推計値を、―は計測不能を示す。単位はmmである。

11　遺構・遺物番号は本文・表・挿図・写真図版とも一致させている。なお、遺構番号は(遺構番号)－(遺構ごとの通し番号)とした。

12　基本層序及び遺構覆土の色調記載については、『新版標準土色帳』(小山・竹原：1997)に依った。

目　次

Ⅰ　調査の経緯と経過
1　調査に至る経緯……1
2　調査の方法と経過……1
Ⅱ　遺跡の立地と環境
1　地理的環境……2
2　歴史的環境……2
Ⅲ　発見された遺構と遺物
1　遺跡の概観……5
(1)　遺跡の層序……5
(2)　遺構と遺物の分布……5
2　検出された遺構と遺物……5
(1)　柱穴跡……6
(2)　土杭・性格不明土坑……16
(3)　溝跡……16
(4)　表土層出土遺物……17
3　総括……17
(1)　調査の成果……17
(2)　平安時代の遺構・遺物について……17

挿　図

第1図　調査区概要図……3
第2図　遺跡位置図……3
第3図　調査地点配置図……7
第4図　ＴＰ３・15～18・22～26平面図・セクション(1)……8
第5図　ＴＰ３・15～18・22～26平面図・セクション(2)……9
第6図　ＴＰ31～34平面図・セクション……9
第7図　ＴＰ39～42・47～49平面図・セクション……10
第8図　ＴＰ８・９平面図・セクション……10
第9図　ＳＤ10・ＳＤ11平面図・セクション…11
第10図　SP·SK·SD·SX·ＴＰ出土遺物……12
第11図　ＳＤ10・２層出土遺物……13
第12図　ＳＤ10・１層出土遺物(1)……14
第13図　ＳＤ10・１層出土遺物(2)……15

表

表1　調査工程表……1
表2　基本層序……4
表3　周辺遺跡一覧……4
表4　土層注記……19～20
表5　遺物分類表……21
表6　遺構観察表……21
表7　遺物観察表……22

図　版

図版1　表土除去作業風景、ＳＰ36検出状況　他
図版2　ＴＰ17検出状況、ＳＰ29検出状況　他
図版3　ＳＰ33完掘状況、ＳＰ31セクション　他
図版4　ＳＰ17セクション、ＳＰ6セクション 他
図版5　ＳＤ10セクション、ＳＤ11セクション他
図版6　出土遺物１
図版7　出土遺物２
図版8　出土遺物３

Ⅰ　調査の経緯

1　調査に至る経過

吉原Ⅱ遺跡は平成８年度に登録された遺跡である。その後、平成９年度に第１次、平成12年度に第２次の発掘調査が、吉原地区土地区画整理事業による道路建設に伴い実施されている。第１次調査において奈良～平安時代の掘立柱建物跡が整然と並び、溝に区画される集落の様相が検出されたことから、官衙的な様相を持つ遺跡として注目された。

今回の調査に至る経緯については、株式会社ニラクにより店舗建設事業が計画された。事業予定地が周知の遺跡「吉原Ⅱ遺跡」に内に所在することから、開発事業者である株式会社ニラクと山形市教育委員会により埋蔵文化財の取り扱いについて協議が行われた。その結果、平成14年６月14日付で山形県教育委員会あて埋蔵文化財発掘の届出が提出され、掘削の及ぶ店舗部分については工事に先立ち緊急発掘調査を実施し、記録による保存を行う運びとなった。

調査の実施にあたり、開発行為の申請者である株式会社ニラクと山形市教育委員会の間で調査に関する協定を平成14年６月25日付で結び、山形市教育委員会が調査を実施することとなった。現場調査については平成14年６月27日～７月31日の延べ25日間の期間で実施された。整理作業については平成14年８月５日付で協定を結び、平成14年度中に報告書を刊行するものとして８月５日より実施した。

2　調査の方法と経過

調査区域については、店舗建設事業実施部分の内、建物の基礎杭が打ち込まれ遺構面に掘削が及ぶ部分に限定した範囲を発掘調査の対象とした。さらに、調査開始時に調査区南東隅に土取り工事によると考えられる既掘削部分が確認され、併せて調査区域に含めるものとした。調査の方法及び経過は以下の通りである(表１)。平成14年６月27日より人力により調査区内の立ち木や雑草を除去し、平成14年７月１日より、人力で遺構面までの掘り下げを開始した。遺構検出面は調査区の東側でやや高く、西側に向かって緩やかに傾斜して低くなる状況であった。検出面の標高は約123mを測る。

事業者側の設計した図面を基準として調査区を設定した(第３図)。第１・２次の調査結果より、遺構の分布が希薄と予想された調査区の西側から東側に向かって作業を進め、人力による表土除去、及び遺構精査・記録作業に着手した。７月31日で作業器財の撤収までを含めた現地での調査を終了した。

表１　調査工程表

月	6		7																	
週	4		1				2				3				4			5		
環境整備	■	■	■	■	■	■														
表土除去	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■				
遺構検出					■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			
遺構精査						■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■		
記録								■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
備考			器財搬入																	器財撤収

Ⅱ　遺跡の立地と環境

1　地理的環境

山形市は、山形県東部に形成される山形盆地内の南東部に位置する。東側には宮城県との県境となる奥羽山脈が連なり，市域の南部と西部には白鷹丘陵が裾野を広げている。奥羽山脈に源を発する馬見ヶ崎川が北流し、南東から北西に伸びる扇状地を形成している。市内西部を須川が北流しており、その沿岸には自然堤防及び後背湿地が広がる。他にも、周囲の山々から流れる大小の河川が小規模な扇状地をつくり、複合扇状地を形成している。

吉原Ⅱ遺跡は山形市の南部、市街地中心部から約３km離れた山形市大字三つ江地内に所在する（第２図）。 山形市街地は馬見ヶ崎川扇状地上に展開し、東の奥羽山脈から盆地西側を北流する須川に向かってやや傾斜する地形となっている。遺跡周辺の地形は東から西に向かって緩やかに傾斜する。標高は約123mを測る。

2　歴史的環境

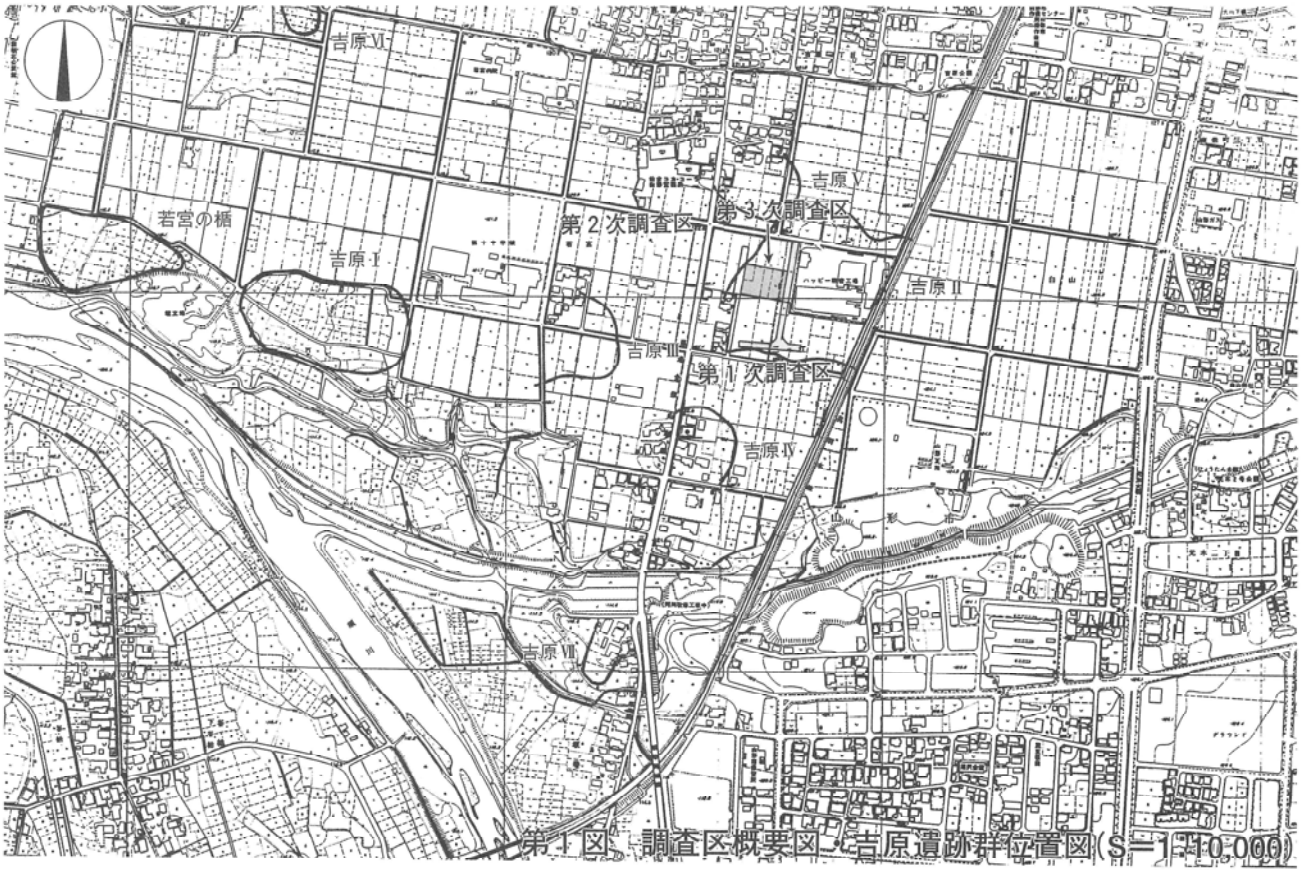
山形市内では現在約300箇所の遺跡が確認されている。近年、各地域で土地区画整理事業等の開発事業が進展するに伴い、埋蔵文化財と開発との調整が増加してきている。

本遺跡周辺の吉原遺跡群では、大規模土地区画整理事業に伴い発掘調査が実施され、奈良～平安時代の時期を中心として、縄文時代から近世にかけての遺構・遺物が検出されている。特に吉原Ⅱ遺跡からは、平成９年度の第１次調査において、８世紀末葉～９世紀初頭の長軸約１ｍを測る掘り方の柱穴によって構成される掘立柱建物跡群が確認されており、その規模及び配置等から官衙的施設である可能性が検討された。併行する時期では、本遺跡の南西2.5kmに位置する石田遺跡から同規模の柱穴を持つ掘立柱建物跡群が検出されている。時期は下るが、本遺跡の南方1.5kmの須川右岸に所在する成沢西遺跡からは、10世紀前葉とされる掘立柱建物跡群が検出されている。

吉原遺跡群の南西２.５㎞に位置する谷柏・本沢地区には多くの遺跡が点在し、縄文時代前期の百々山遺跡、後期の中谷柏遺跡が存在する。古墳時代では、多数の埴輪が出土した菅沢２号墳を含む菅沢古墳群が、谷柏地区西方の丘陵中腹には終末期の谷柏古墳群（県指定）が存在し、集落遺跡では萩原遺跡、沢田遺跡、山形元屋敷遺跡などが点在する。

奈良～平安時代の遺跡についても発掘調査が増加しており、谷柏・松原地区を中心に(財)山形県埋蔵文化財センターにより、東北中央自動車道建設・山形ニュータウン建設事業などを事業要因として、石田遺跡・谷柏Ｊ遺跡・萩原遺跡・オサヤズ窯跡・小松原窯跡・山形元屋敷遺跡など多数の発掘調査が実施されている。

特に山形市松原地区から上山市久保手地区にかけての地域は、須恵器生産窯の密集地域であり、吉原遺跡群も含め、調査成果の検討により、山形盆地南半の古代の様相や、生産地遺跡と消費地である集落遺跡の関連性等について考察を進めてゆく必要性があろう。



第1図　調査区概要図（吉原遺跡群位置図（S＝1：10,000）

第2図　遺跡位置図（S＝1：25,000）

表２　基本層序

層序	土色	土質	備考
Ⅰ	10YR6/1	褐灰色シルト	Φ１～３㎝大礫わずかに含む。耕作土。
Ⅱ	2.5Y7/1	灰白色細砂	鉄分が全体にまじる。耕作土。
Ⅲ	2.5Y6/3	にぶい黄色細砂	しまり弱。粘性弱。礫が40％程まじる。
Ⅳ	7.5Y2/1	黒色シルト	しまり強。粘性強。均質。

表３　周辺遺跡一覧

No	遺跡名	種別	年代	その他の時期・備考
1	吉原Ⅱ	集落跡	8C末葉～9C前半	
2	吉原Ⅰ	集落跡	8C後葉～9C初頭	中世・近世
3	吉原Ⅲ	集落跡	8C後半～9C前葉	
4	吉原Ⅳ	集落跡	8C末葉～9C前半	
5	吉原Ⅵ	集落跡	9C前半	近世
6	吉原Ⅶ	集落跡	9C中葉	
7	山形西高敷地内	集落跡	9C後半～10C初頭	縄文(中期末葉・晩期後葉)・弥生(桜井)・古墳(塩釜)
8	青田	集落跡	奈良・平安	古墳
9	石コロ	散布地	平安	
10	神尾Ｂ	散布地	平安	
11	三本木窯	窯跡	9C末葉～10C初頭	
12	神尾Ｃ	散布地	平安	
13	神尾Ｄ	集落跡	平安	
14	成沢西	集落跡	10C前葉	
15	西の宮	集落跡	9C中葉	
16	塩辛田Ａ・Ｂ	集落跡	8C末葉～9C前半	古墳（南小泉）・中世
17	館	集落跡・城館跡	平安	縄文(中期中葉)・中世
18	坊屋敷	集落跡	8C後半～9C前半	縄文(中期中葉・後期・晩期)・弥生(桜井)・古墳(塩釜)
19	金池	集落跡	平安	縄文(中期中葉・後期前葉・晩期前葉)
20	百目鬼	集落跡	9C後半	近世
21	鏡ケ渕	集落跡	奈良・平安	
22	落合	集落跡	奈良・平安	古墳
23	前明石	集落跡・古墳	平安	弥生(桜井)・古墳
24	寺裏	集落跡	9C	古墳(塩釜・南小泉Ⅱ)
25	二位田	集落跡	8C末葉～9C初頭	縄文(中期後半)・弥生(桜井)
26	萩原	集落跡	8C中葉～9C前葉	古墳・中世
27	谷柏Ｊ	集落跡	平安	縄文(後期前葉)・古墳・中世・近世
28	上谷柏	集落跡	9C中葉	
29	沢田	集落跡	奈良・平安	弥生(桜井)・古墳
30	谷柏	集落跡	奈良・平安	古墳(塩釜・南小泉Ⅱ)
31	山形元屋敷	集落跡	平安	古墳(塩釜)
32	石田	集落跡	9C初～中葉	縄文(中期末葉)
33	高崎	集落跡	奈良	
34	高崎山	祭祀遺跡	平安	
35	古峯山	経塚	平安	別称「谷柏山経塚」
36	片谷地	集落跡	平安	
37	横手区	集落跡	奈良・平安	縄文(中期中葉)・古墳・中世
38	松原	散布地	平安	
39	オサヤズ窯	窯跡・集落跡	8C末葉	縄文
40	オミロク火葬墓群	墓	平安	(平成10年度登録抹消)
41	石原坂Ａ	集落跡	平安	縄文(平成10年度登録抹消)
42	小松原窯跡群	窯跡	9C前半	縄文(早期末)
43	長者屋敷	窯跡・集落跡	平安	縄文
44	熊野堂	窯跡	平安	俗称「ガラミキ」

Ⅲ　発見された遺構と遺物

1　遺跡の概観

(1)　遺跡の層序

遺跡の層序は3層に区分された。現場段階でⅠ～Ⅲ層の基本層序を確認した(表2)。Ⅰ層が表土及び耕作土である。遺構はⅡ～Ⅲ層にて検出された。Ⅱ層は火山灰パミス状の堆積物を多く含む黄褐色シルト層であった。Ⅱ層より下層に確認されるⅢ層は、黄褐色の非常に粘性が強いシルト層であった。そのため水はけは悪く、調査期間中には度々の降雨や台風による降水のため、作業の中断に悩まされた。

地形は東から西にむかって緩やかに傾斜する。遺構及び遺物の出土状況から、遺跡範囲は調査区の西側には広がらないものと判断された。

(2)　遺構と遺物の分布

今回の調査で確認された遺構は、主に掘立柱建物跡を構成したと考えられる柱穴群である。平安時代前半と判断される時期の遺構と遺物の分布は調査区内東側に集中して検出され、調査区内西側で遺構は検出されず、遺物のみ表土層から検出された。今回の調査区域は、想定される吉原Ⅱ遺跡の集落全体の位置関係において、北西端の周縁部分にあたるものと推測される。

平成9年度に本市教育委員会が発掘調査を行なった第1次調査区からは、奈良～平安時代初頭の掘立柱建物跡群が確認されている(武田1998・2001)。これら以前の遺構との関連性の把握を目的として、調査は東側に集中した柱穴群や溝跡の精査を中心に行った。事業との兼ね合いにより調査区の制約はあったが、検出された遺構の配置状況は第3図の通りである。

検出された柱穴跡は36基である。他にＳＫ42土坑、ＳＤ１・10・11溝跡、ＳＸ40性格不明土坑等が確認されており、それらによって本遺跡の遺構内容が構成される。遺構群の年代については、出土遺物の様相からはいずれも9世紀初頭～後半、平安時代前半の範疇におさまるものと判断した。

遺構群の主体となる柱穴群は、調査区の制約もあり、明瞭な建物の構成関係を把握する事ができず、出土遺物の年代からは大幅な時期差は看取できなかった。

検出された遺物については、大勢としては9世紀後半の須恵器が主体を占める。中でも甕等の貯蔵具が数量的に多い。また、いわゆる赤焼土器の坏も一定量確認された。なお、土師器甕等の煮炊具の体部破片も数多く検出されたが、図化し得なかったものが多い事を付記しておく。

周辺の遺跡群の様相については、吉原Ⅱ遺跡から県道を挟んで西側には吉原Ⅰ遺跡・吉原Ⅲ遺跡が所在する。北側には縄文時代中期の吉原Ⅴ遺跡が所在する。吉原遺跡群は大規模土地区画整理事業に伴い発掘調査が実施され、奈良時代後半から平安時代前半を中心に、縄文時代から近世にかけての遺構・遺物が検出されている。時期による遺構密度・検出内容の差はあるものの、吉原Ⅰ・吉原Ⅱ・吉原Ⅲ遺跡においては8世紀後半～9世紀初頭の掘立柱建物跡を中心とする遺構群が検出されている。

2　検出された遺構と遺物

吉原Ⅱ遺跡の調査で検出された遺構は、Ⅱ～Ⅲ層（表2）にて確認された。遺物は大半がＳＤ10溝跡からの出土であり、全体で整理箱にして8箱出土した。以下、その概要を略述する。

なお、調査区の制約から、図版および本文の記載については、便宜的に近接して検出されたＴＰごとでまとめている。建物跡を構成する要素の関連性でまとめたものではない。

(1)　柱穴跡（第４～９図　図版１～３）

柱穴跡として確認されたものは36基である。これらは検出状況や出土遺物から判断して、全て９世紀初頭～後半の時期に帰属する遺構と考えられる。平面プラン検出時の状況や断面の土層観察から、重複や切り合いが認められるものもあり、新旧関係は以下の通りであった。同一建物を構成すると考えられる類似性は複数箇所で認められたが、調査区の制約もあり、積極的に建物を構成し得るだけの関連性を見出すことができなかった。以下、検出した遺構について概略を述べる。

SP13･14･15･16･17･18･19･20･21･25･26･27･29･31･32･33･34･35･36･41･43（第4～5図　図版1～4）

（位置）SP14･15･16･31･32･34･35･36（TP３）・SP43・41（TP18）・SP18（TP22）・SP19･20（TP23）・SP29（TP24）・SP17・27（TP25）・SP13（TP26）

（規模）平面形態は円形や長楕円形、隅丸方形を呈する。SP14･15･16･31･32･34･35･41は同一線上の並びにあり、柱穴の規模も長軸60～90cm、深さ20～40cm前後と類似するため同一建物の構成要素と考えられるが、建替えが頻繁に行われたためか、柱穴同士の切り合い・抜き取りが激しく、柱の並びとしての規則性を見出せなかった。

（出土遺物）ＳＰ36掘り方覆土より須恵器有台坏（36-１）が出土した。

（年代）出土遺物より、９世紀初頭～後半の時期と考えられる。

ＳＰ５・23・24・30（第６図　図版２）

（位置）ＳＰ23･24（ＴＰ31）・ＳＰ30（ＴＰ32）・ＳＰ５（ＴＰ34）に位置する。

（規模）平面形態は円形や方形を呈する。ＳＰ５は長軸24cm、深さ16cmと小規模である。ＳＰ23はＳＰ24を切っており、平面形態はいずれも方形を呈する。ＳＰ23は長軸で88cm、ＳＰ30は長軸で96cmであり、同等の規模を呈するため、同一建物の構成要素であった可能性が強い。またＳＰ23・24には建替えのあった可能性が認められる。

（出土遺物）ＳＰ30掘り方覆土より須恵器坏（30-１）が出土した。

（年代）ＳＰ30については、出土遺物より、９世紀代と考えられる。その他の柱穴跡もおおむね同じ時期と考えられる。

ＳＰ２・６・37・38・39（第７図　図版１・２）

（位置）ＳＰ２（ＴＰ49）・ＳＰ６（ＴＰ39）・ＳＰ37・38（ＴＰ42）・ＳＰ39（ＴＰ41）に位置する。

（規模）平面形態は円形や方形を呈する。ＳＰ２は長軸48cm、ＳＰ６は長軸56cmで平面円形を呈する。ＳＰ37・39は各々長軸が84・92cmと大きく、平面方形を呈する。深さも60cm前後と深く、同一建物の構成要素であった可能性が強い。ＳＰ38はＳＰ39の抜取穴と考えられる。

（出土遺物）ＳＰ39掘り方覆土より須恵器坏（39-１）・甕か鍋（39-２）が出土している。

（年代）ＳＰ２がＳＤ１に切られる。出土遺物より９世紀後半と考えられる。

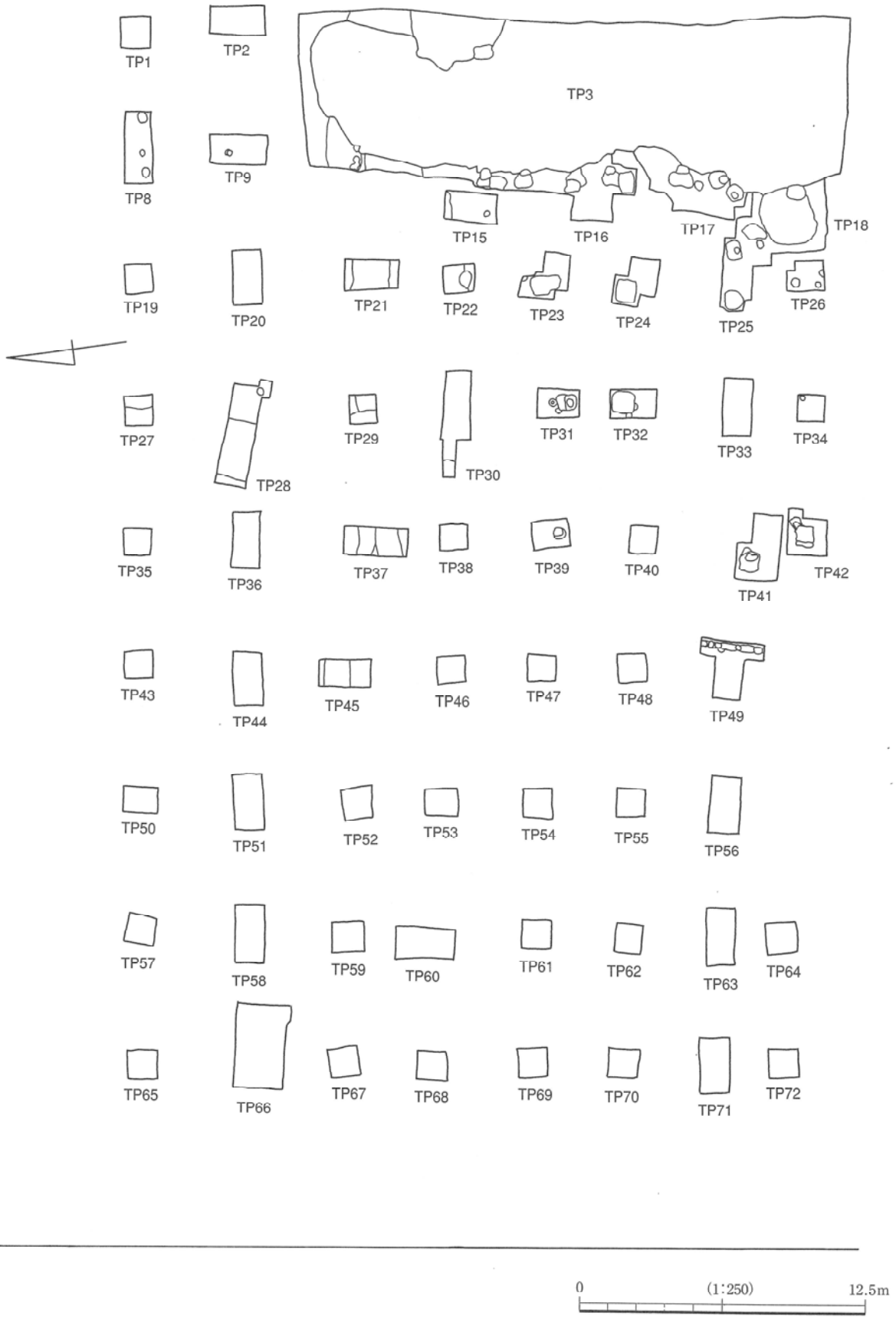
ＳＰ４・７・８・９（第８図　図版２）

（位置）ＴＰ８～９に位置する。

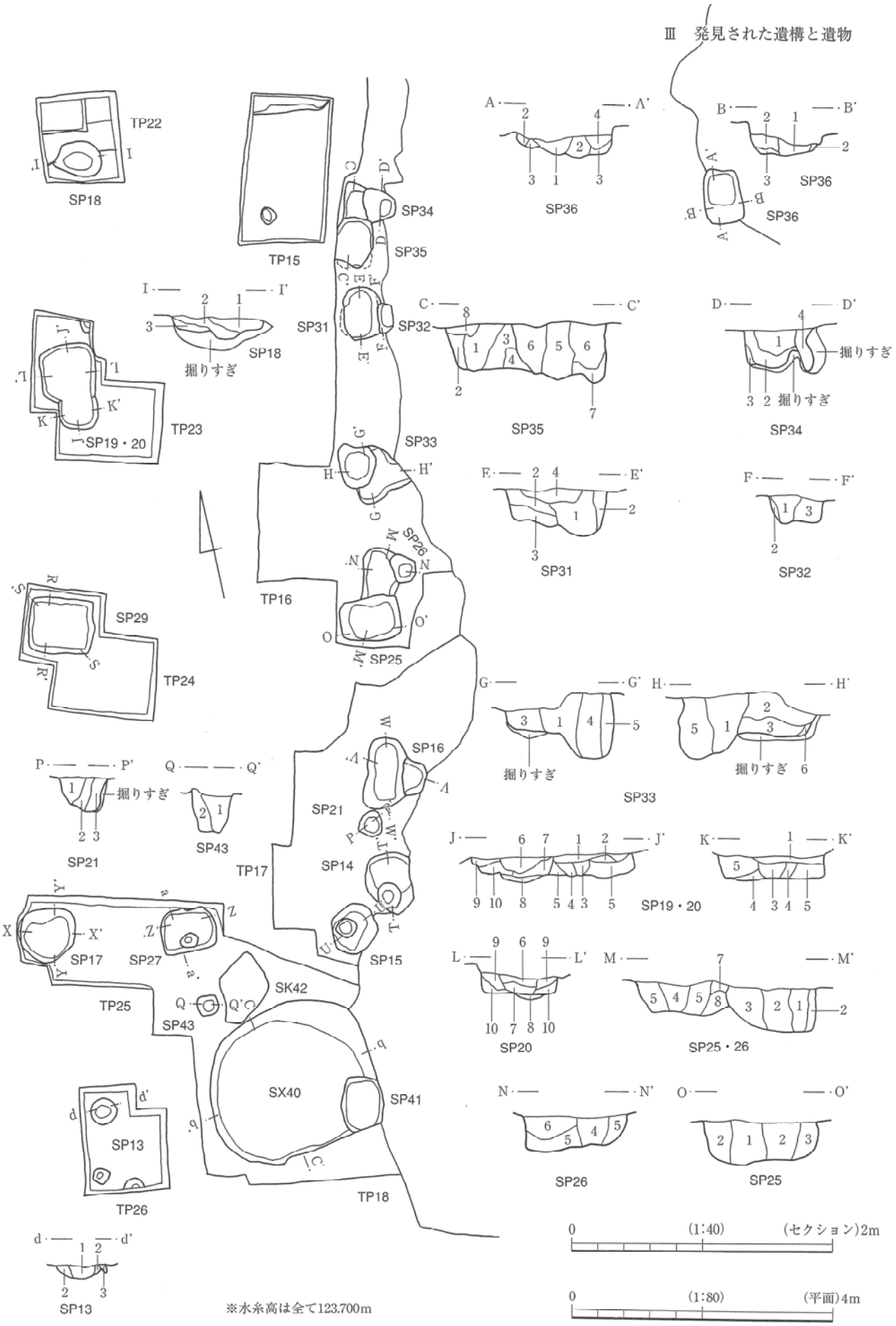
（規模）いずれも平面形は円形を呈する。直径30cm程度の小規模なものばかりであり、深さも40cm程度のものが多い。柱筋の並びも判然としなかった。Ⅱ層地山で確認されるものが多い。

（出土遺物）いずれの柱穴覆土からも遺物は出土していない。

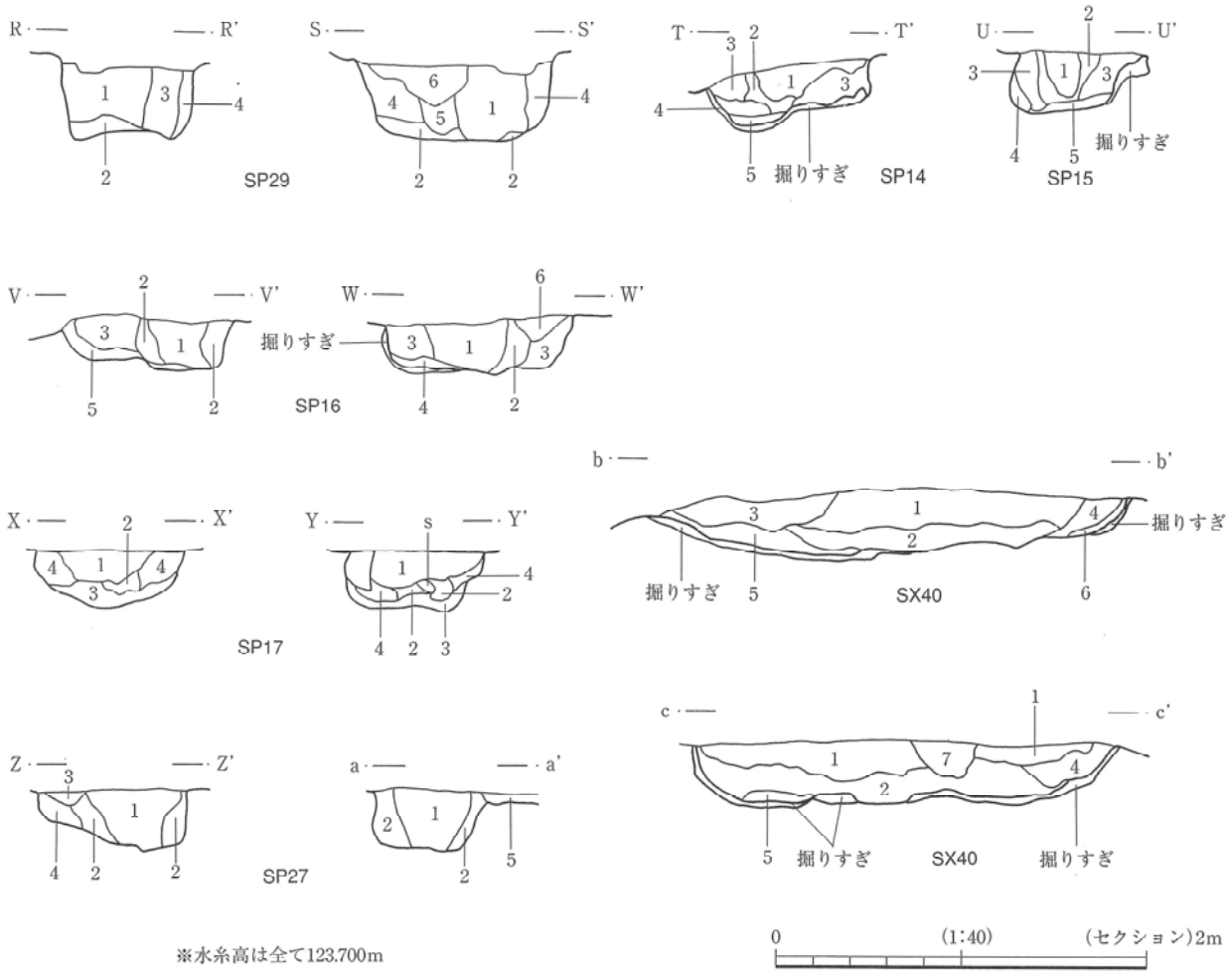
（年代）遺物は検出されないが、他の柱穴群と覆土の土色は類似しており、時期は９世紀後半と考えられる。


TP1
TP2
TP3
TP8
TP9
TP15
TP16
TP17
TP18
TP19
TP20
TP21
TP22
TP23
TP24
TP25
TP26
TP27
TP28
TP29
TP30
TP31
TP32
TP33
TP34
TP35
TP36
TP37
TP38
TP39
TP40
TP41
TP42
TP43
TP44
TP45
TP46
TP47
TP48
TP49
TP50
TP51
TP52
TP53
TP54
TP55
TP56
TP57
TP58
TP59
TP60
TP61
TP62
TP63
TP64
TP65
TP66
TP67
TP68
TP69
TP70
TP71
TP72
0
(1:250)
12.5m

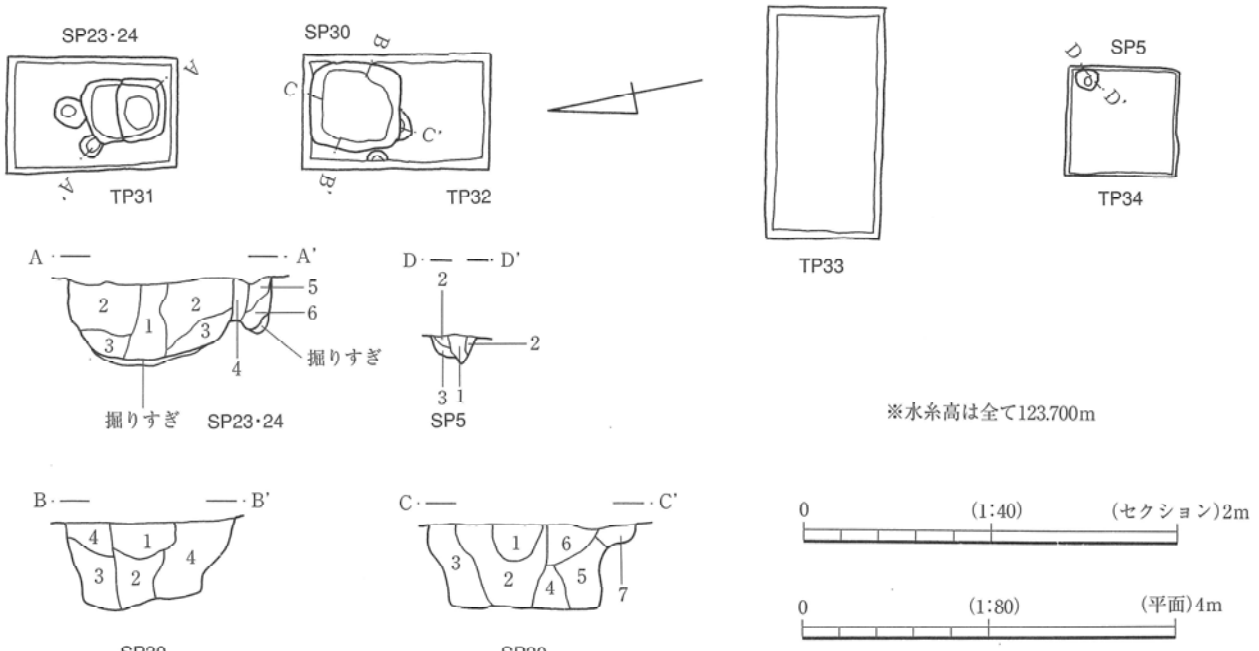
第 3 図　調査地点配置図



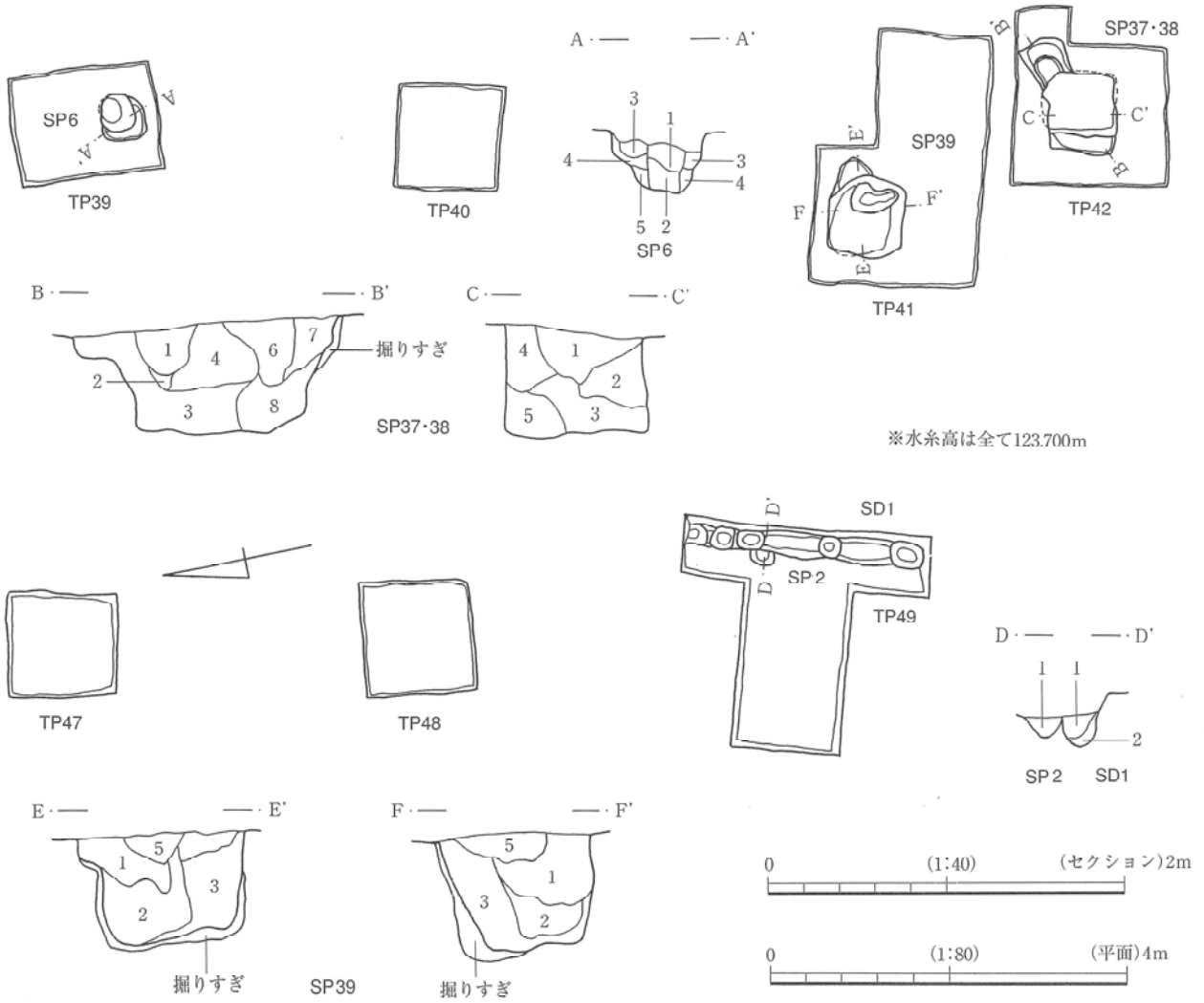
第４図　TP3･15～18･22～26平面図･セクション(1)



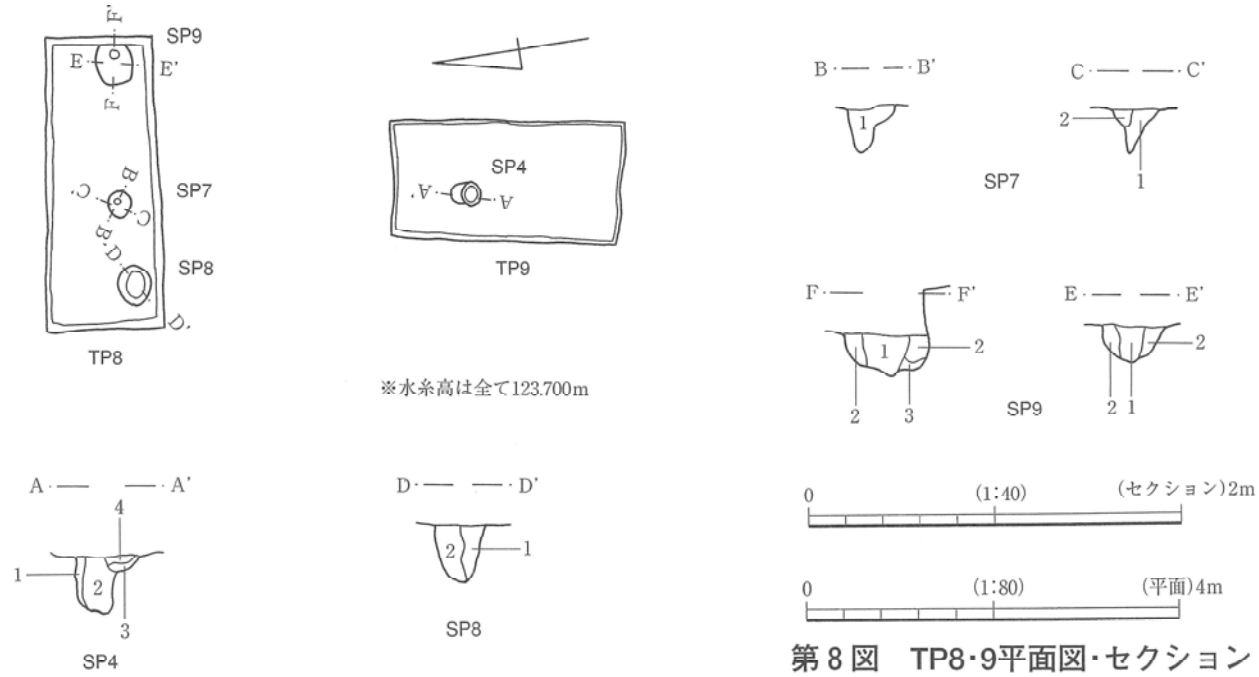
第５図　TP3･15～18･22～26平面図･セクション(2)



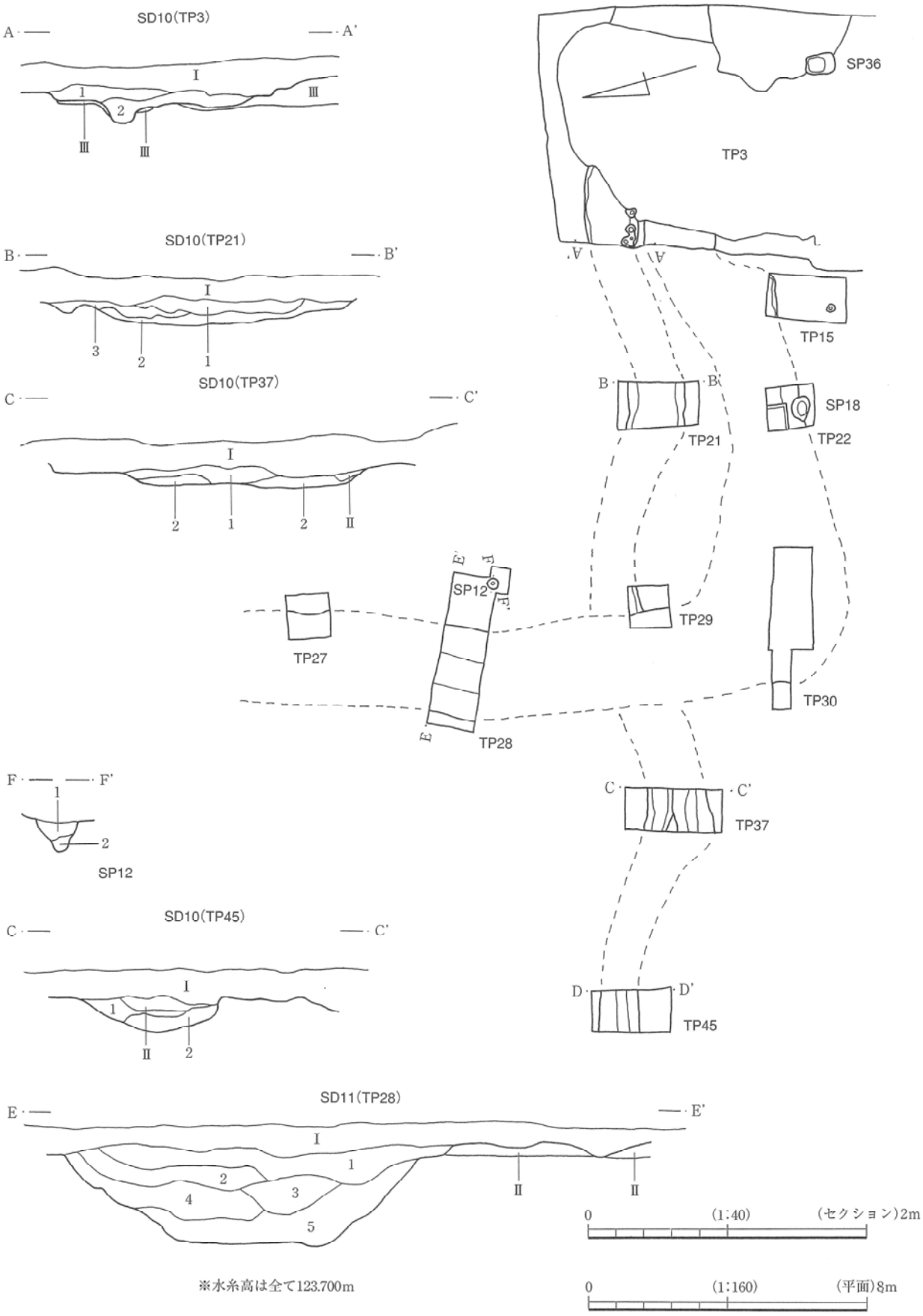
第６図　TP31～34平面図･セクション



第７図　TP39～42・47～49平面図・セクション

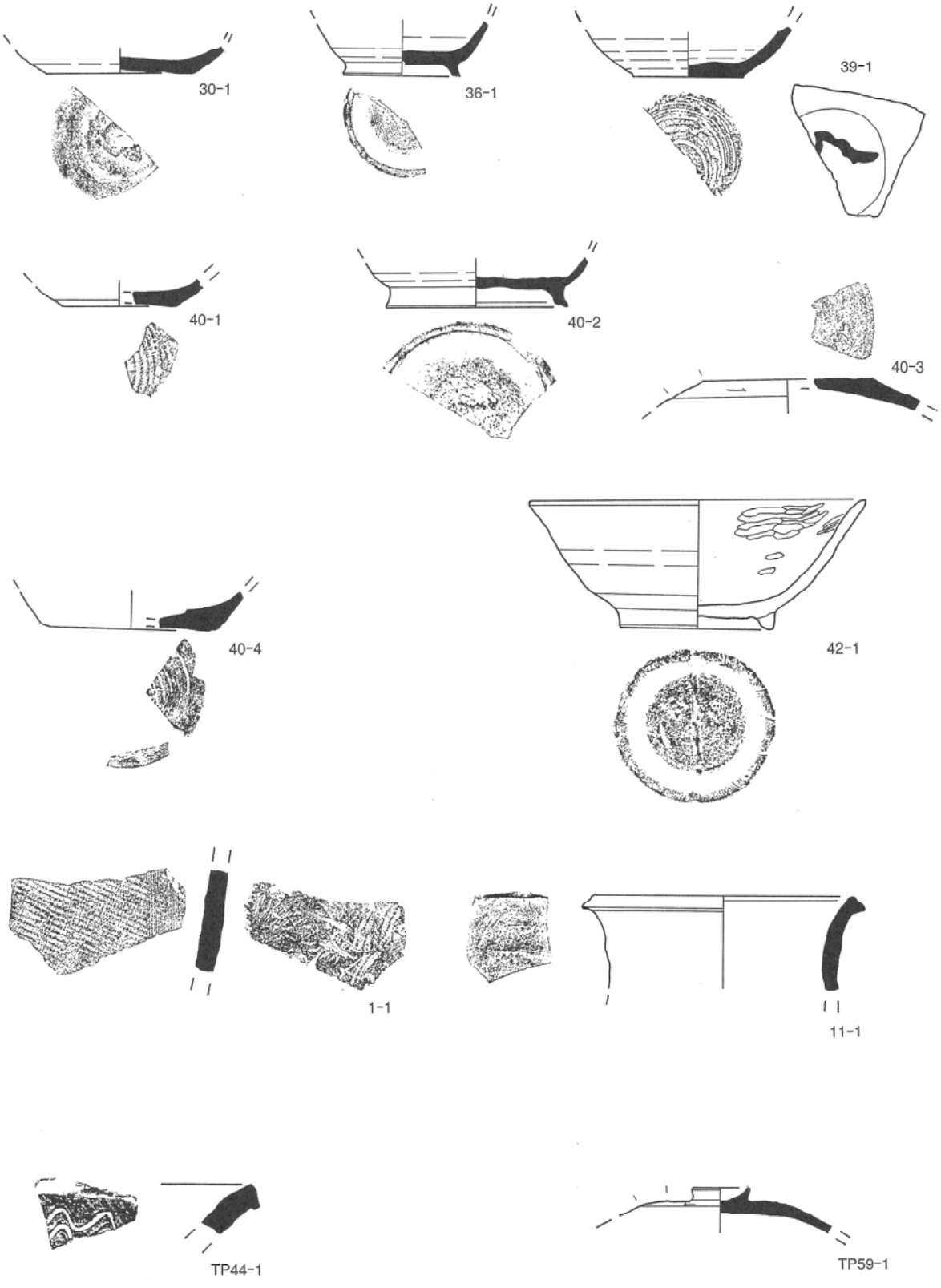


第８図　TP8・9平面図・セクション

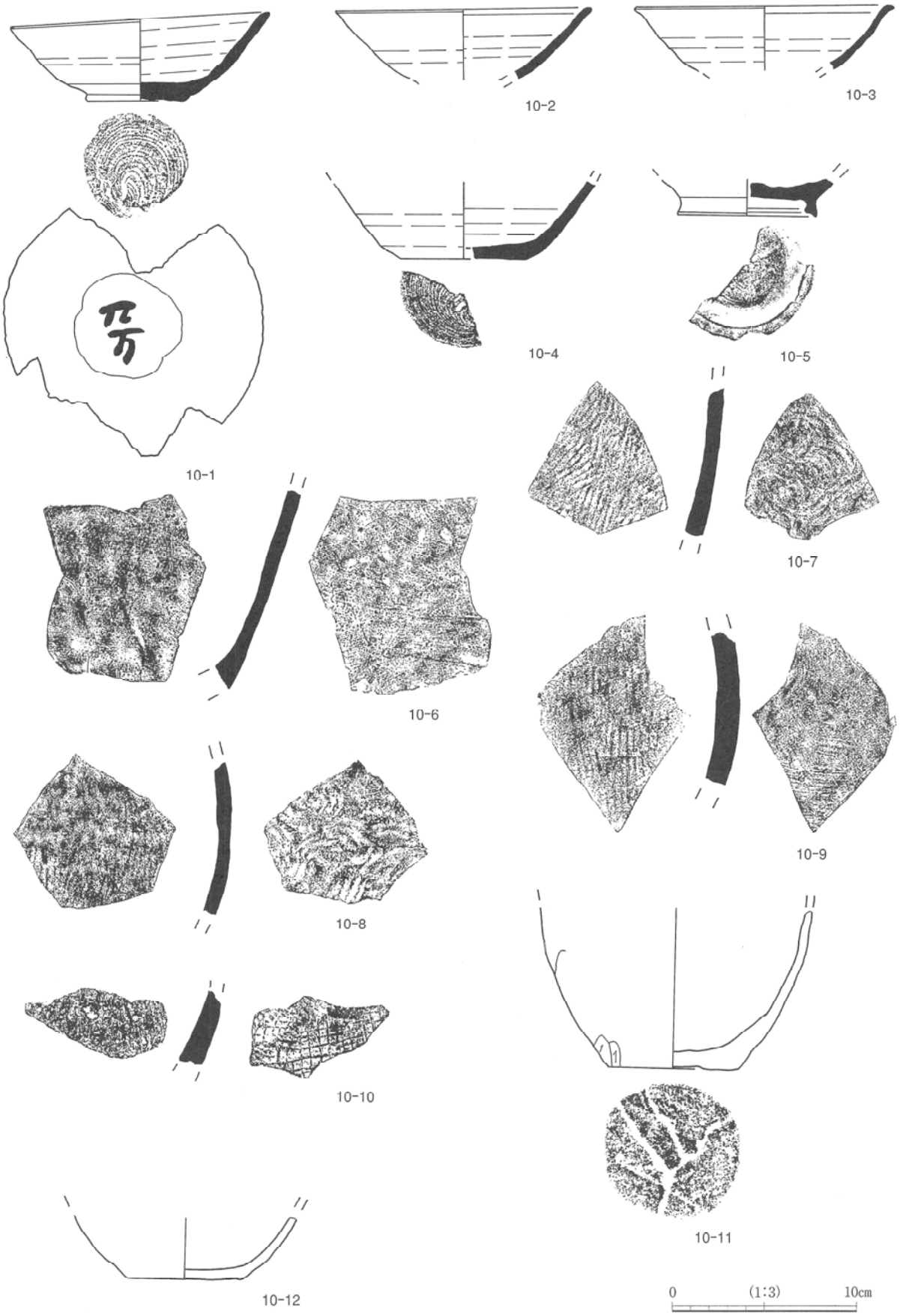


※水糸高は全て123.700m

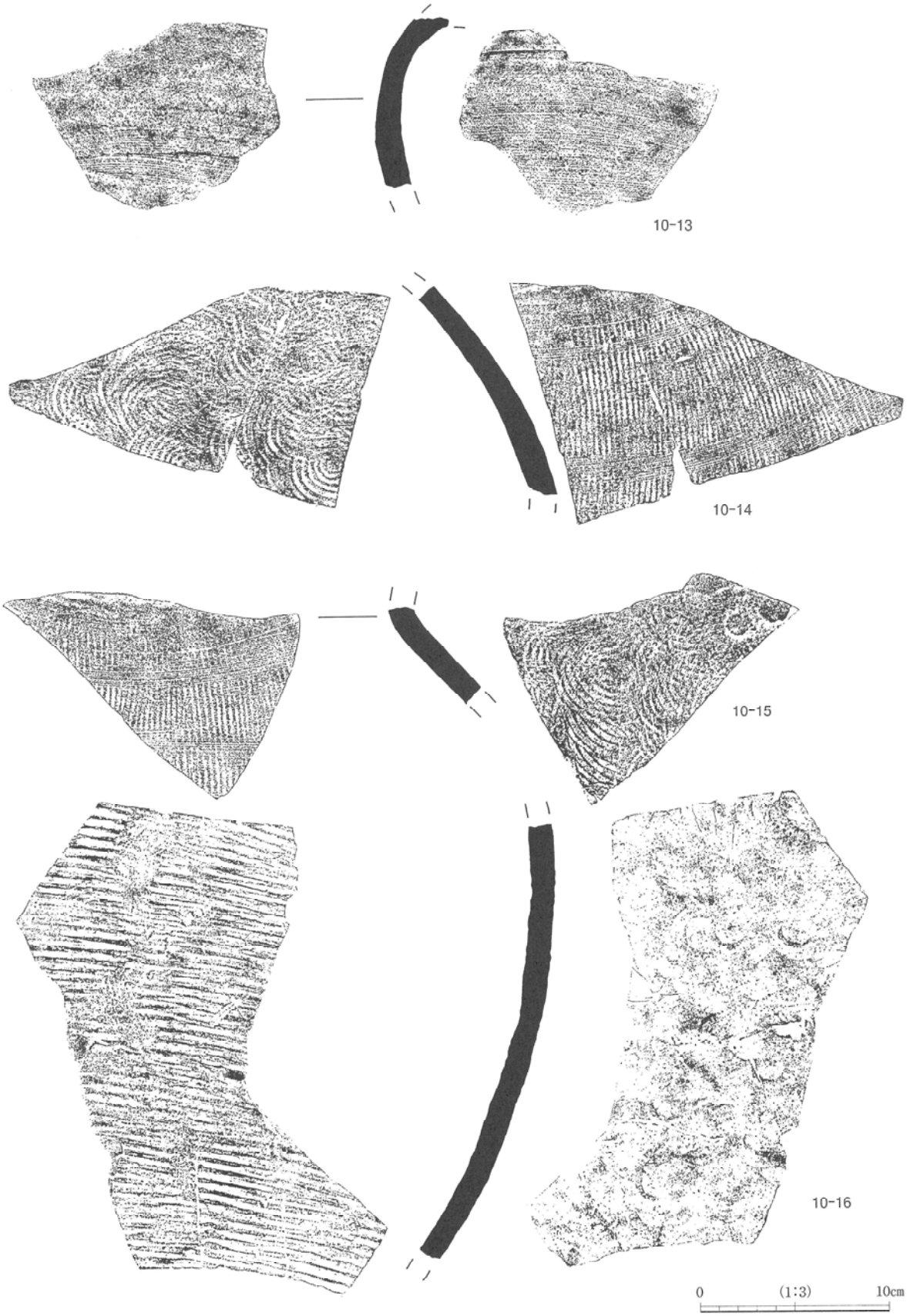
第９図　SD10・SD11平面図・セクション



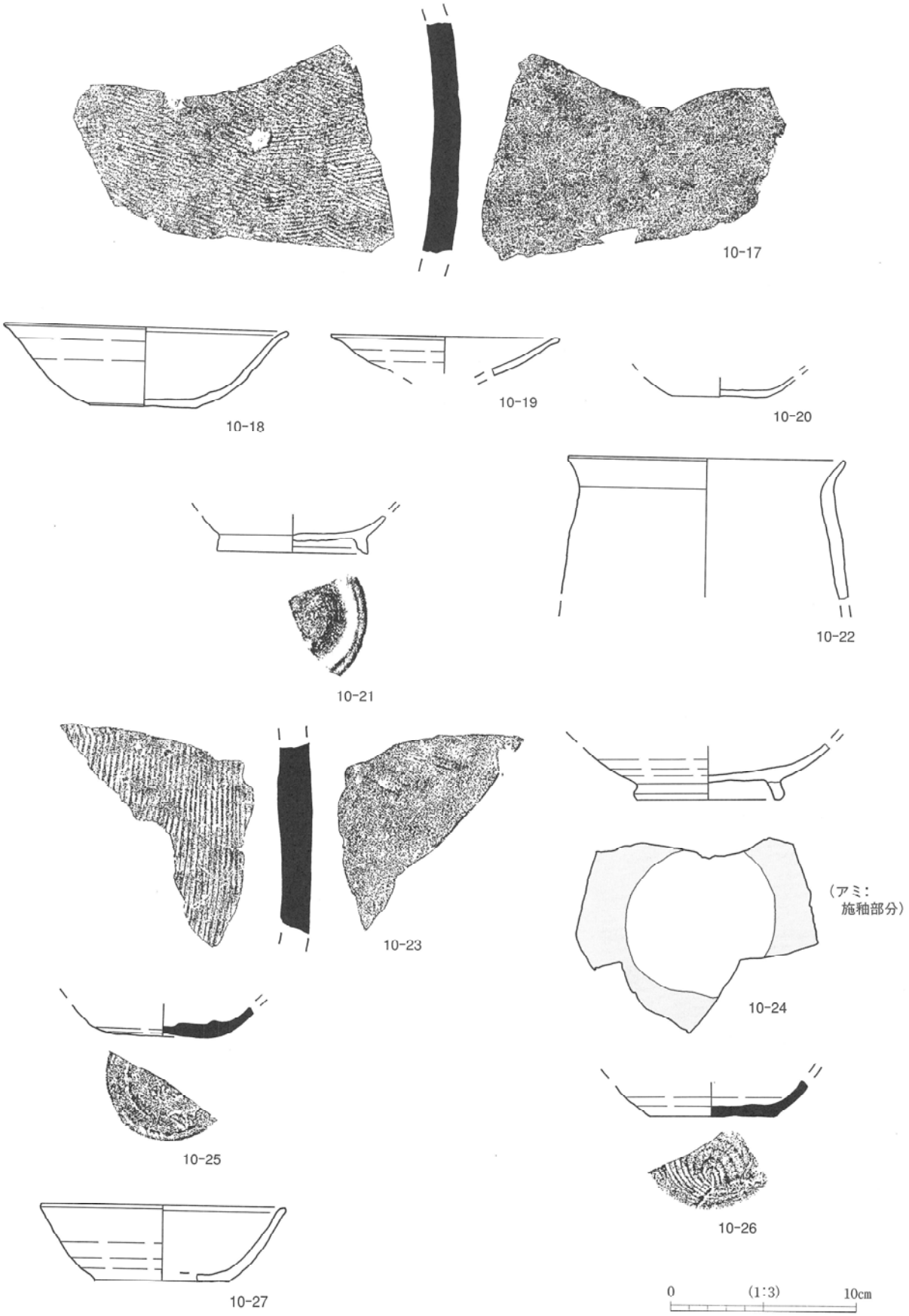
第10図　SP・SK・SD・SX・TP出土遺物



第11図　SD10(2層)出土遺物



第12図　SD10(1層)出土遺物(1)



第13図　SD10(1層)出土遺物(2)

ＳＰ12（第９図）

（位置）ＴＰ28に位置する。

（規模）平面形は円形、直径32cmであり、深さも20cmと浅い。他の柱穴群との関連も不明である。

（出土遺物）遺物は出土しなかった。

（年代）遺物は検出されていないが、他の柱穴群と覆土の土色は類似しており、時期は９世紀後半と考えられる。

(2)　土抗・性格不明土坑

ＳＫ42（第４図　図版４）

（位置）ＴＰ18に位置する。

（規模）平面形状は不整形を呈し、規模は長軸約140cm、短軸84cmを測る。深さは非常に浅く、「はまり」のような堆積であったと考えられる。

（出土遺物）遺物は土師器有台坏（43-１）が出土した。内面に黒色処理が施される。

（年代）遺物から９世紀中葉～後葉の時期と考えられるが、周囲の遺構群との詳細な新旧関係については不明である。

ＳＸ40（第４～５図　図版４）

（位置）ＴＰ18に位置する。

（規模）平面形状は円形を呈し、規模は長軸約260cm、短軸220cm、深さ約35cmを測る。形状としては鉢形の土坑であった。SP41柱穴を切って作られた遺構である。遺物の出土は第１～２層（第５図）からのみであり、出土遺物の年代が遺構の年代を示すものかどうかは不明である。土坑そのものの性格の詳細については判然としなかった。

（出土遺物）遺物は須恵器坏（40－１）・有台坏（40－２）・蓋（40－３）・壺（40－４）が出土した。

（年代）遺物から９世紀中葉～後葉の所産と考えられる。ＳＰ41を切る。

(3)　溝　跡

ＳＤ10（第９図　図版４～５）

（位置・方向）東から西に流れ、ＴＰ3・21・29・37・45に位置する。ＴＰ37で２本に分かれる様相であるが、ＴＰ45では１本の流路しか確認できず、それより西側に流路は確認されなかった。

（規模）幅100～220cm、深さ14cm～26cmを測る。

（年代）１層と２層の出土遺物を層位で取り上げ、分類して図化し掲載した（第11～13図）。層序関係は１層が２層よりも上層で新しい。セクション図（第９図）の層位番号と対応させている。出土遺物の様相から、２層の須恵器は回転糸切・底部無調整の坏（10-１～４）が出土しており、体部の形態も類似したプロポーションにまとまる。甕も外面平行タタキ・内面同心円圧痕のもの（10-８～10）が大勢を占める。１層は「あかやき土器」の坏・有台坏（10-18～21）が混入する。灰釉陶器碗（10-24）も確認される。

ＳＤ11（第９図　図版５）

（位置・方向）調査区中央を東から流れ、ＴＰ30付近において北に向かって折れ曲がる様相である。ＴＰ３·15・22・27・28・29・30にて確認された。

（規模）幅280cm、深さ100cmを測る（ＴＰ28）。東～北西に走る。確認されたいずれの地点においても深さは100cm前後と深い。全体の様相については把握できなかった。

（年代）出土遺物は須恵器甕口縁（11-1）のみ図化して掲載した。遺構の切り合いについては、ＳＤ10を切っている（ＴＰ29）。覆土の土色は茶褐色で粘性が強く、周辺の古代の遺構群より新しい様相が窺えた。出土遺物に近世陶器等が含まれ、近世以降の所産であると推定されるが、詳細な埋没年代については不明である。遺物の年代観や土質から鑑みて、新しい時期まで使用されていたものと考えられる。

ＳＤ１（第７図　図版５）

（位置・方向）南北に流れ、ＴＰ49に位置する。調査区南側に向かって流れる様相であった。

（規模）幅約30㎝、深さ約40㎝を測る。溝底部にピットが連なって検出される様相であり、柵列のような様相かとも窺えたが、判然としない。

（年代）遺物は須恵器甕（1-1）が出土している。周辺との様相より９世紀代後半の時期と考えられる。ＳＰ２を切る。

(4)　表土層出土遺物（第10図　図版６～７）

表土層や確認面より土師器・須恵器・近世陶器が出土した。図化可能なものについて一部掲載した。須恵器は坏·有台坏・甕（TP44-1）・蓋（TP59-1）、土師器は甕、近世陶器は擂鉢などが出土している。

3　総括

(1)　調査の成果

吉原Ⅱ遺跡は、山形市域西部を流れる須川右岸の微高地上に立地する奈良～平安時代の集落跡である。今回の調査は店舗建設工事を原因とする緊急発掘調査で、事業実施範囲内の建物建設予定範囲を対象にしたものである。

今回の調査の意義として、官衙的施設である可能性が示唆された吉原Ⅱ遺跡について、発掘調査の実施により従来の成果に加えて遺跡の様相を明らかにできた事が挙げられよう。

以下、本調査区にて検出された遺構・遺物をもとに、考察を加えて調査のまとめとしたい。

(2)　平安時代の遺構及び遺物について

検出された遺構は、柱穴36基、溝跡３条、土坑１基、性格不明土坑１基であった。時期は平安時代前半（９世紀後半）のものがほとんどである。以下、検出された遺構群について考察を加える。

遺構の変遷及び性格について

まず柱穴群について述べる。概括的には平面規模において長軸１ｍ以上で平面方形のもの（ＳＰ39·40他）、長軸80～60㎝程度のもの、長軸50㎝以下のもの（ＳＰ２・５·13他）と、大きく３つの規模に分類できる。ＴＰ３の西側には密集して柱穴が確認され、複数期の建替・変遷が看取でき、同一の建物跡を構成すると考えられたが、調査区の制約もあり、柱穴の配置等で明確な関連性を見出せなかった。

次に溝跡について述べる。柱穴群と同時期の９世紀代後半に属するものがＳＤ10・１の２条、ＳＤ11は土色・出土遺物より、近世以降の所産と考えられる。特にＳＤ10からは、精査面積に比べて、多量の遺物が出土している。出土遺物については、覆土の層位からは時期差は判別されなかった（第11～13図）が、上層である１層は須恵器貯蔵具がその大勢を占め、下層である２層では須恵器・土師器とも坏・有台坏の供膳具が大勢を占める、という相違点が窺えた。中でも１層より灰釉陶器碗（K-90段階併行か）（10-24）が出土している事は特筆できよう。時期的にも、１層からは須恵器坏が出土しておらず、現状では明瞭な年代観が判断できないが、２層出土遺物の須恵器の年代観よりやや下る、ないしは同時期の

ものと判断される。

土坑ＳＫ42・ＳＸ40はＴＰ18にて検出された。ＳＸ40はＳＰ41を切っており、柱穴群よりもやや新しい時期の印象を持つが、定かでない。

出土遺物について

本調査で出土した遺物はコンテナ8箱を数える。その内39点について図化し得た。出土遺物は土師器・須恵器・灰釉陶器等土器類が最も多く、中でも供膳形態の坏、貯蔵形態の甕・壺等が主体である。先に年代観を述べると、主体の遺物群は、９世紀代後半の年代が坏や有台坏の形態から推定される。

本書中では出土遺物の種別についてⅠ―須恵器、Ⅱ－土師器、Ⅲ－施釉陶器の３種に大別した。器種は、Ａ－坏、Ｂ－有台坏、Ｃ－蓋、Ｇ－壺、Ｈ－甕、Ｉ－碗、Ｊ－擂鉢に分類し、器形や調整技法の特徴により細分した。須恵器・土師器共に完形に近い物が少なく、遺物様相の傾向を判断するに困難な状況であり、貯蔵具や煮炊具などは出土部位の様相で分類するにとどめた。底部痕跡についてはａ－篦切、ｂ－回転糸切、ｃ－葉脈痕、ｄ－ナデ調整のため不明、の４類に分類している。本書中の遺物の分類については表５の通りである。

須恵器から様相を略述する。出土した器種は供膳形態が少なく、比較して貯蔵形態の出土量が多い。坏については、底部切離し痕跡では回転篦切が僅かであり、回転糸切、あるいは切り離しの後底面ナデ調整を行ったものが大半を占める。胎土には凝灰岩粗砂が混入するものが多く見られた。貯蔵形態の甕や壺は部分でしか出土せず、個体の様相が識別し得るものは皆無であった。体部・肩部片については、表裏の調整によって分類を試みた。

また、須恵器にのみ墨書土器が確認されている。坏（10-１・39-１）の２点である。いずれも墨痕が著しく摩滅していたが、赤外線カメラを利用して識別した結果、10-１については「廿万」ではないかと識別できたが、39-１の字体については不明であった。赤外線カメラの使用は（財）山形県埋蔵文化財センターの御協力を、字体の識別は東北芸術工科大学　村木志伸氏からの御教示を得た。

土師器で出土した器種については甕の底部や体部など、煮炊形態の甕が大半であった。大半の遺物の遺存状態は悪く、完形に近い形となるものは皆無であり、部位ごとの特徴による分類のみにとどめた。赤焼土器も土師器の範疇に含めて分類した。出土器種は坏のみである。

施釉陶器は古代灰釉陶器碗（10-24）・近世陶器擂鉢が出土している。特にＳＤ10･1層出土の10-24は９世紀後半～末葉の年代観が考えられる（齊藤1994･2000）。２層出土の須恵器坏（10-１・２・３・４）などの年代観とほぼ併行か、若干下るものと考えられる。庄内地方に比べて、村山地方での灰釉陶器の出土事例は少ないが、調査件数に比して増加している。今後も在地の土器群と編年を対比させながら、年代観の確定に向けた作業が必要となろう。

まとめ

結果として、第１次調査の遺構群との関連性を確認することは困難であった。掘立柱建物跡が遺構群の主体を成す様相は同様であるが、遺物の年代は第１次調査区よりも新しい様相を呈し、９世紀代後半の遺構群と考えられる。調査区の制約もあり、建物跡を構成するに至らなかったことは先に述べた。吉原Ⅱ遺跡も含め、今後の整理作業の実施を通して、官衙的様相を持つとされる吉原遺跡群の性格について明らかにしてゆく必要があろう。

表４－１　土層注記

遺構番号	層序	土色	土質	土質・混入物	備考	挿図	図版
SP13	1	2.5Y5/1	黄灰色シルト	しまり強。φ1cm大焼土・炭を全体に5%含む。		4	3
	2	2.5Y4/1	黄灰色シルト	しまり強。φ1～3cm大焼土・炭が僅かに含む。			
	3	2.5Y3/1	黒褐色シルト		新しい堆積か。		
SP14	1	10YR3/1	黒褐色シルト	しまり・粘性強。下層に明黄褐色シルト20%混じる。	アタリ陥没後の崩落土か。	4	3
	2	10YR2/1	黒色シルト	しまり・粘性強。明黄褐色シルトブロック10%含む。			
	3	10YR2/1	黒色シルト	しまり・粘性強。均質。	掘り方か崩落土か不明。		
	4	2.5Y8/4	浅黄色シルト	粗砂多く含む。			
	5	2.5Y8/6	黄色シルト		アタリ底部か。		
SP15	1	10YR3/1	黒褐色シルト	しまり・粘性強。	アタリか陥没後の堆積か不明	4	3
	2	5Y2/1	黒色シルト	しまり・粘性強。細砂僅かにまじる。			
	3	5Y2/1	黒色シルト	上層に明黄褐色シルトブロック混入。			
	4	2.5Y3/1	黒褐色シルト	しまり・粘性強。均質。			
	5	2.5Y8/6	黄色シルト	粗砂多く含む。黒褐色シルトブロック僅かに混じる。			
SP18	1	10YR3/1	黒褐色シルト	しまり強。灰白色シルト僅かに含む。		4	－
	2	7.5YR4/3	褐色シルト	しまり・粘性強。細砂多く含む。			
	3	7.5YR4/2	灰黄褐色シルト	黒色シルトが僅かに混じる。			
SP19	1	10YR2/1	黒色シルト	しまり・粘性強。明黄褐色シルトブロック僅かに含む。		4	1
	2	2.5Y6/2	灰黄褐色シルト	しまり・粘性強。黒色シルトブロック僅かに含む。			
	3	2.5Y2/1	黒色シルト	しまり・粘性強。明黄褐色シルトブロック僅かに含む。	アタリ		
	4	10YR2/2	黒褐色シルト	しまり・粘性強。明応褐色シルトブロック僅かに含む。	アタリ		
	5	10YR2/1	黒色シルト	しまり・粘性強。明黄褐色シルトブロック僅かに含む。			
SP20	6	10YR3/1	黒褐色シルト	しまり・粘性強。明黄褐色シルトブロック僅かに含む。	アタリ	4	1
	7	10YR7/6	明黄褐色シルト	しまり・粘性強。黒色シルトブロック僅かに含む。	アタリ		
	8	10YR7/8	黄橙色シルト	しまり・粘性強。粗砂僅かに含む。			
	9	2.5y2/1	黒色シルト	黄橙色シルトブロック僅かに含む。			
	10	2.5Y7/8	黄橙色シルト	褐灰色シルト僅かに含む。			
SP21	1	5Y2/1	黒色シルト	しまり・粘性強。黄橙色シルト僅かに含む。	アタリ陥没後の崩落土か	4	2
	2	10YR2/1	黒色シルト	均質。	アタリか		
	3	10YR2/1	黒色シルト	明黄褐色シルトブロック僅かに含む。			
SP25	1	10YR2/2	黒褐色シルト	粘性強。礫僅かにまじる。	アタリ	4	1
	2	10YR6/6	明黄褐色シルト	しまり・粘性強。Ⅱ層由来粗砂僅かに含む。	掘り方		
	3	10YR2/3	黒褐色シルト	しまり・粘性強。Ⅱ層由来粗砂多く含む。	掘り方		
SP26	4	10YR1.7/1	黒色シルト	しまり・粘性強。明黄褐色シルトブロック僅かに含む。	アタリ	4	1
	5	10YR2/2	黒褐色シルト	しまり・粘性強。明黄褐色シルトブロック僅かに含む。	掘り方		
	6	10YR3/1	黒褐色シルト		抜き取り後の堆積か		
	7	10YR2/1	黒色シルト	しまり・粘性強。明黄褐色シルト僅かに含む。			
	8	10YR1.7/1	黒色シルト	下方に明黄褐色シルト含む。			
SP31	1	10YR3/1	黒褐色シルト	しまり・粘性強。	アタリ	4	3
	2	10YR2/2	黒褐色シルト	しまり・粘性強。黄橙色シルトブロック含む。	掘り方		
	3	10YR2/1	黒色シルト	粘性強。	掘り方		
	4	10YR8/8	黄橙色シルト	しまり・粘性強。黒色シルトブロック含む。			
SP32	1	10YR2/2	黒褐色シルト	しまり・粘性強。	アタリ	4	－
	2	10YR2/3	黒褐色シルト	しまり・粘性強。明黄褐色シルト含む。			
	3	10YR1.7/1	黒色シルト	しまり・粘性強。明黄褐色シルトブロック僅かに含む。			
SP33	1	10YR3/1	黒褐色シルト	しまり・粘性強。アタリ。明黄褐色シルトブロック含む。		4	3
	2	10YR4/1	褐灰色シルト	しまり・粘性強。明黄褐色シルトブロック含む。掘り方。			
	3	10YR2/2	黒褐色シルト	しまり・粘性強。上側に明黄褐色シルト含む。掘り方。			
	4	10YR3/1	黒褐色シルト	粘性強。1層以前のアタリか。			
	5	10YR2/2	黒褐色シルト	しまり・粘性強。均質。			
	6	10YR7/8	黄橙色粗砂	均質。			
SP34	1	10YR2/2	黒褐色シルト	しまり・粘性強。明黄褐色シルト僅かに含む。		4	－
	2	10YR2/3	黒褐色シルト	しまり・粘性強。黄橙色ブロック僅かに含む。			
	3	10YR4/2	灰黄褐色シルト				
	4	10YR3/2	黒褐色シルト		新しい掘り込みか。		
SP35	1	10YR2/2	黒褐色シルト	しまり・粘性強。黄橙色シルト僅かに含む。	古いアタリ	4	－
	2	10YR5/4	にぶい黄褐色シルト	しまり・粘性強。層状に2.5Y3/1シルト含む。	掘り方		
	3	10YR2/2	黒褐色シルト	しまり・粘性強。明黄褐色シルトブロック含む。	掘り方		
	4	10YR4/4	褐色シルト	粘性強。黒褐色シルト全体に混じる。	掘り方		
	5	10YR3/1	黒褐色シルト	均質。	新しいアタリ		
	6	10YR3/2	黒褐色シルト	しまり・粘性強。黄橙色シルトブロック含む。	掘り方		
	7	10YR4/4	褐色シルト	粘性強。細砂多く含む。	掘り方		
	8	10YR3/1	黒褐色シルト	しまり・粘性強。均質。			
SP36	1	10YR2/3	黒褐色シルト	アタリか。均質。		4	1
	2	10YR2/3	黒褐色シルト	しまり・粘性強。明黄褐色シルトブロック含む。掘り方。			
	3	10YR4/4	褐色シルト	黒褐色シルト混じる。			
	4	10YR2/2	黒褐色シルト	しまり・粘性強。均質。後の堆積か。			
SP43	1	10YR2/2	黒褐色シルト	しまり強。Ⅱ層由来ブロック僅かに混じる。		4	－
	2	10YR2/1	黒色シルト	しまり強。明黄褐色シルトブロック10%混じる。			
SP16	1	10YR2/3	黒褐色シルト	しまり・粘性強。褐色シルト20%含む。	アタリ	4 5	－
	2	10YR2/2	黒褐色シルト	しまり・粘性強。均質。	掘り方		
	3	10YR3/1	黒褐色シルト	しまり・粘性強。礫僅かに含む。	掘り方		
	4	10YR4/3	にぶい黄褐色シルト	粘性強。細砂多く含む。			
	5	10YR3/1	黒褐色シルト	しまり・粘性強。明黄褐色シルト僅かに含む。	掘り方		
	6	2.5Y3/1	黒褐色シルト	しまり・粘性強。にぶい黄褐色シルトブロック含む。			
SP17	1	10YR3/1	黒褐色シルト	しまり・粘性強。黄色シルトブロック10%含む。		4 5	4
	2	10YR2/2	黒褐色シルト	しまり・粘性強。粗砂含む。	アタリ		
	3	10YR3/1	黒褐色シルト	しまり・粘性強。下方に浅黄橙色シルト混じる。			

表４－２　土層注記

遺構番号	層序	土色	土質	土質・混入物	備考	挿図	図版
SP17	4	10YR2/2	黒褐色シルト	しまり・粘性強。黄橙色シルトブロック僅かに混じる。		4　5	4
SP27	1	10YR3/1	黒褐色シルト	しまり・粘性強。黄橙色シルトブロック含む。	アタリ	4　5	－
	2	10YR2/1	黒色シルト	しまり強。明黄褐色シルトブロック層状に混じる。			
	3	10YR2/2	黒褐色シルト	しまり・粘性強。浅黄橙色シルトブロック僅かに含む。			
	4	10YR2/2	黒褐色シルト	しまり・粘性強。浅黄橙色シルトブロック10%含む。			
	5	10YR3/2	黒褐色シルト	浅黄橙色シルト層状に含む。	SK28		
SP29	1	10YR2/2	黒褐色シルト	しまり・粘性強。明黄褐色シルトブロック10%含む。	アタリ	4　5	2
	2	10YR7/6	明黄褐色シルト	粘性強。粗砂・礫多く含む。	古いアタリか？		
	3	10YR2/2	黒褐色シルト	しまり弱。粘性強。	アタリ		
	4	10YR2/2	黒褐色シルト	しまり・粘性強。黄橙色シルト僅かに含む。	掘り方		
	5	10YR3/1	黒褐色シルト	しまり・粘性強。浅黄橙色シルトブロック僅かに含む。	掘り方		
	6	10YR5/4	にぶい黄褐色シルト	しまり・粘性強。上方に黒褐色シルト僅かに堆積。	新しい堆積		
SX40	1	10YR2/3	黒褐色シルト	しまり・粘性強。にぶい黄橙色シルトブロック10%含む。遺物包含層。		4　5	4
	2	10YR3/3	暗褐色シルト	黄橙色シルトブロック・炭化物共に僅かに含む。遺物包含層。			
	3	10YR2/3	黒褐色シルト	しまり・粘性強。Ⅱ層由来混入物5%含む。			
	4	7.5YR3/1	黒褐色シルト	しまり・粘性強。均質。			
	5	10YR2/2	黒褐色シルト	しまり・粘性強。均質。			
	6	10YR4/6	褐色シルト	しまり・粘性強。中程に灰黄褐色シルト堆積。			
	7	2.5Y3/1	黒褐色シルト		新しい落ち込みか？。		
SP5	1	10YR2/1	黒色シルト	しまり・粘性強。	アタリ	6	－
	2	10YR3/1	黒褐色シルト	しまり・粘性強。地山由来シルトブロック30%含む。			
	3	10YR8/6	黄橙色シルト	しまり・粘性強。褐灰色シルトブロック10%含む。			
SP23	1	10YR2/3	黒褐色シルト	粘性強。粗砂多く含む。	アタリ	6	2
	2	10YR2/1	黒色シルト	しまり・粘性強。上方に灰白色シルトが含まれる。			
	3	10YR2/3	黒褐色シルト	しまり・粘性強。全体に灰白色シルトが含まれる。			
SP24	4	10YR3/1	黒褐色シルト			6	2
	5	10YR2/1	黒色シルト	明黄褐色シルトブロック僅かに含む。	アタリかどうか不明		
	6	10YR2/2	黒褐色シルト	黄橙色シルトブロック僅かに含む。			
SP2	1	10YR3/1	黒褐色シルト	しまり・粘性強。		7	5
SP6	1	10YR2/1	黒色シルト	黄橙色シルトブロック僅かに含む。	アタリ	7	4
	2	2.5Y4/1	黄灰色シルト	黄橙色シルトブロック僅かに含む。	アタリ		
	3	10YR2/2	黒褐色シルト	にぶい黄橙色シルトブロック僅かに含む。	掘り方		
	4	10YR4/2	灰黄褐色シルト	にぶい黄橙色シルトブロック僅かに含む。	掘り方		
	5	10YR5/6	黄褐色シルト	にぶい黄橙色シルトブロック僅かに含む。	掘り方		
SP37	1	10YR2/3	黒褐色シルト	しまり・粘性強。黄橙色シルトブロック僅かに含む。	アタリかどうか不明	7	3
	2	10YR5/4	にぶい黄褐色シルト	しまり強。粗砂僅かに含む。			
	3	10YR5/4	にぶい黄褐色シルト	しまり・粘性強。	掘り方		
	4	10YR3/2	黒褐色シルト	しまり・粘性強。下方に黒褐色シルト堆積。			
	5	10YR4/4	褐色シルト				
SP36	6	10YR2/2	黒褐色シルト	しまり・粘性強。均質。	アタリか陥没後の堆積か不明	7	3
	7	10YR2/3	黒褐色シルト	しまり・粘性強。下方に黄橙色シルトブロック堆積。			
	8	10YR3/1	黒褐色シルト	粘性強。明黄褐色シルトブロック僅かに堆積。			
SP39	1	10YR3/4	暗褐色シルト	しまり・粘性強。黄褐色シルトブロックが混じる。	アタリあるいは抜き痕	7	2　3
	2	10YR2/1	黒色シルト	粘性強。浅黄橙色シルトまばらに含む。	アタリあるいは抜き痕		
	3	10YR2/2	黒褐色シルト	しまり・粘性強。	掘り方		
	4	10YR2/3	黒褐色シルト	黄橙色粗砂ブロック僅かに含む。	掘り方		
	5	10YR3/3	暗褐色シルト	しまり・粘性強。粗砂・礫僅かに混じる。			
SP4	1	7.5YR3/2	黒褐色シルト	しまり・粘性強。上方に明黄褐色細砂が僅かに混じる。		8	－
	2	10YR2/2	黒褐色シルト	しまり・粘性強。遺物・木炭僅かに混じる。	アタリ		
	3	7.5YR4/3	にぶい黄褐色シルト	しまり・粘性強。Ⅱ層由来ブロック10%混入。			
	4	10YR4/2	灰黄褐色シルト	炭化物僅かに混じる。			
SP7	1	10YR2/1	黒色シルト	均質。		8	－
	2	10YR4/1	褐灰色シルト	しまり弱。Ⅱ層・粗砂多く含む。			
SP8	1	10YR2/1	黒色シルト	均質。	アタリ	8	－
	2	10YR4/2	灰黄褐色シルト	Ⅱ層・粗砂多く含む。			
SP9	1	10YR3/1	黒褐色シルト	しまり・粘性強。	アタリ	8	2
	2	10YR3/1	黒褐色シルト	1層よりも均質。			
	3	10YR5/3	にぶい黄褐色シルト	粘性強。粗砂多く含む。			
SP12	1	7.5YR2/1	黒色シルト	しまり・粘性強。均質。		9	－
	2	10YR3/3	暗褐色シルト	しまり・粘性強。黒褐色シルトブロック僅かに含む。			
SD1	1	10YR2/3	黒褐色シルト	しまり・粘性強。地山由来のにぶい黄褐色シルトブロック50%含む。		7	5
	2	10YR2/2	黒褐色シルト	均質。			
SD10	1	10YR3/2	黒褐色シルト	均質。		9	4　5
	2	10YR2/1	黒色シルト	Ⅱ層由来ブロック下方に30%含む。			
	3	10YR3/2	黒褐色シルト	しまり強。Ⅱ層由来ブロック僅かに混じる。1層と2層の漸移層か。			
SD11	1	10YR3/3	暗褐色シルト	しまり強。均質。		9	5
	2	10YR4/4	褐色シルト	しまり強。Φ1cm大礫まばらに含む。			
	3	10YR4/5	褐色シルト	しまり強。Φ10cm大礫わずかに含む。			
	4	10YR3/2	黒褐色シルト	均質。酸化鉄僅かにまじる。			
	5	10YR4/2	灰黄褐色シルト	均質。			

表５　遺物分類表

土器区分	器種	器種分類	口縁部～体部形態	外面調整	内面調整	底面形状
須恵器Ⅰ	坏A	1	器高が高く、体部が直線に立ち上がる	ロクロ	ロクロ	a　b
		2	器厚が薄く、ロクロ目が顕著に残り口縁部が外反する	ロクロ	ロクロ	a　b
	有台坏B		高台が外側端部で接地する　　付高台	ロクロ	ロクロ	b　d
	蓋C	1	天井部が平坦で、体部との境が明瞭	ロクロ　ケズリ ナデ	ロクロ	
		2	天井部が丸みを持ち、体部との境が不明瞭	ロクロ　ケズリ	ロクロ	
	壺G	1	底部平底のもの	ロクロ　ケズリ	ロクロ	d
		2	小型で、底部に台のつくもの	ロクロ	ロクロ	b
	甕H	1	口縁部器厚が1.2cm前後	ロクロ	ロクロ	
		2	口縁部器厚が0.7cm前後	ロクロ	ロクロ	
		3	肩部で、平行タタキ→カキ目の調整が入る	ロクロ　タタキ カキメ	ロクロ	
		4	体部で、外面平行タタキ・内面同心円アテ痕	ロクロ　タタキ	同心円アテ	
		5	体部で、外面平行タタキ・押えアテ痕	ロクロ　タタキ	アテ痕	
		6	体部で、外面平行タタキ・内面格子状アテ痕	ロクロ　タタキ	格子状アテ痕	
		7	体部で、外面平行タタキ・内面ハケメ状調整痕	ロクロ　タタキ	アテ痕	
土師器Ⅱ	坏A	1	ロクロ成形（あかやき土器）で内面黒色処理	ロクロ	ロクロ	b　c
		2	ロクロ成形（あかやき土器）	ロクロ	ロクロ	b　c
	有台坏B	1	ロクロ成形であかやき土器とは異なる焼成	ロクロ	ミガキ	d
		2	両面黒色処理	ロクロ	不明	d
	甕H	1	平底で体部が直線に立ち上がる	ハケメ　ケズリ	ハケメ	c
		2	小型で器高が低く、内面黒色処理を施すもの	ナデ　ハケメ	ミガキ	
		3	器厚が厚く、口縁部と体部の境がくの字状に屈曲するもの	ナデ	ロクロ	
施釉陶器Ⅲ	碗Ⅰ		古代の灰釉陶器碗を一括	ケズリ	ケズリ	d
	擂鉢J		近世陶器擂鉢と考えられるものを一括	ロクロ	ロクロ	b

表６　遺構観察表

遺構記号	遺構番号	所在ＴＰ	平面形態	長軸	短軸	深さ	備考	挿図	図版
ＳＰ	2	49	円形	48	44	10	ＳＤ1に切られる	9	5
ＳＰ	4	9	円形	24	20	28		8	—
ＳＰ	5	34	円形	24	20	16		6	
ＳＰ	6	39	円形	56	48	34		7	4
ＳＰ	7	8	円形	28	24	24		8	—
ＳＰ	8	8	円形	44	32	30		8	—
ＳＰ	9	8	円形	(44)	40	20		8	—
ＳＰ	12	28	円形	32	28	22		9	—
ＳＰ	13	26	円形	40	40	10	焼土多量に含む	4	3
ＳＰ	14	17	不整円形	92	76	44		4	3
ＳＰ	15	17	不整円形	84	68	36		4	3
ＳＰ	16	17	長楕円形	108	56	26	東側に抜き倒しているか？	4	—
ＳＰ	17	18	不整方形	84	80	30		4	4
ＳＰ	18	22	長楕円形	72	42	24		4	—
ＳＰ	19	23	方形	(84)	88	20	19が20を切る	4	1
ＳＰ	20	23	方形	60	(52)	18	19が20を切る	4	1
ＳＰ	21	17	円形	40	36	26		4	—
ＳＰ	23	31	方形	88	64	42	23が24を切る	6	2
ＳＰ	24	31	円形	20	(20)	28	23が24を切る	6	2
ＳＰ	25	16	方形	92	64	32	25が26を切る	4	1
ＳＰ	26	16	不整円形	(74)	(30)	18		4	1
ＳＰ	27	18	方形	84	64	32		4	—
ＳＰ	29	24	方形	104	84	40		4	2
ＳＰ	30	32	方形	96	92	40		4	—
ＳＰ	31	3	不整円形	(44)	(32)	22	ＳＰ32を切る	4	3
ＳＰ	32	3	不整円形	76	(60)	36	ＳＰ31に切られる	4	—
ＳＰ	33	3	不整円形	64	(60)	50	南に抜き倒しているか？	4	3
ＳＰ	34	3	不整円形	52	48	30	34が35を切る	4	—
ＳＰ	35	3	方形	72	56	40	34が35を切る	4	—
ＳＰ	36	3	方形	84	60	48		4	1
ＳＰ	37	42	方形	84	78	54	37を38が切る	7	3
ＳＰ	38	42	不整形	—	—	—	抜取り穴か	7	3
ＳＰ	39	42	方形	92	84	66		7	2　3
ＳＰ	41	18	方形	80	64	-	ＳＸ40に切られる	4	—
ＳＰ	43	18	円形	36	32	32		4	—
ＳＫ	42	18	不整形	108	72	—		4	4
ＳＤ	1	49						7	5
ＳＤ	10	21　29　37　45						9	4　5
ＳＤ	11	3　15　22　30						9	5
ＳＸ	40	18	円形	260	220	34		4	3

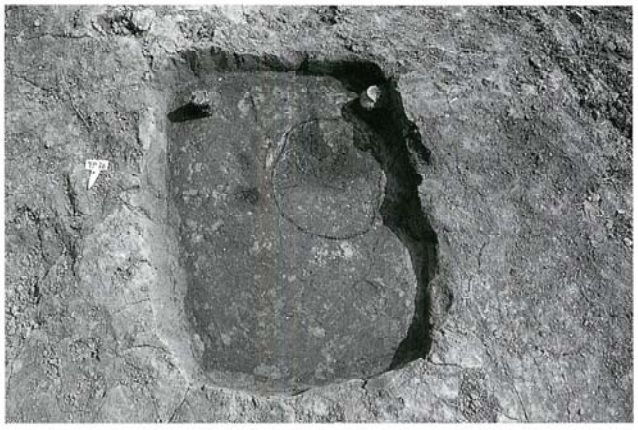
表７　遺物観察表

遺物番号	ＴＰ	遺構番号	層位	種別	器種	残存部位	分類	口径	底径	器高	器厚	外面	内面	胎土混入物	備考	挿図	図版
1-1	16	SD１	1層	須恵器	甕	体部	ⅠH4				0.9	平行タタキ→ハケメ	同心円圧痕			10	8
11-1	28	SD11	1層	須恵器	甕	口縁部	ⅠH2	12.9			0.8	ヘラナデ	ロクロ	粗砂含む		10	7
30-1	32	ＳＰ30	ホリ方	須恵器	坏	底部	ⅠAa		7.4		0.5	ロクロ	ロクロ	粗砂含む		10	7
36-1	3	ＳＰ36	3層	須恵器	壺か有台坏か不明	底部	ⅠG2b		5.8		0.4	ロクロ	ロクロ			10	7
39-1	41	ＳＰ39	ホリ方	須恵器	坏	底部	ⅠAb		5.4		0.5	ロクロ	ロクロ	粗砂多く含む	底面墨書痕	10	7
40-1	18	SX40		須恵器	坏	底部	ⅠAb		5.6		0.6	ロクロ	ロクロ	粗砂含む		10	7
40-2	13	ＳＸ40		須恵器	有台坏	底部	ⅠBd		9		0.3	ロクロ	ロクロ		セピア色	10	7
40-3	18	ＳＸ40		須恵器	蓋	天井部	ⅠC1		8.4		0.7	ケズリ	ロクロ		粗砂多く含む	10	7
40-4	18	SX40		須恵器	壷	底部	ⅠG1d		8.2		0.8	底部立ち上がりケズリ	ロクロ			10	7
42-1	16	ＳＫ42		土師器	有台坏	全体	ⅡB1d	16.4	7.5	6.3	5	ロクロ	ミガキ	粗砂含む		10	6
TP44-1	44		Ⅱ層	須恵器	甕	口縁部	ⅠH1				1.1	ロクロ	ロクロ		外面櫛描波状文	10	7
TP59-1	59		Ⅰ層	須恵器	蓋	体～天井部	ⅠC2		7.2		0.4	ロクロ　ケズリ	ロクロ	海綿骨針含む		10	7
10-1	21	ＳＤ10	2層	須恵器	坏	全体	ⅠA1b	13.2	5.2	4.4	0.6	ロクロ	ロクロ	粗砂含む	底面墨書「廿万」カ	11	6
10-2	21	ＳＤ10	2層	須恵器	坏	体部～口縁部	ⅠA1	13.4			0.4	ロクロ	ロクロ			11	6
10-3	3	ＳＤ10	2層	須恵器	坏	体～口縁部	ⅠA2	15.6			0.3	ロクロ	ロクロ			11	6
10-4	3	ＳＤ10	2層	須恵器	坏	底～体部	ⅠAb		6.6		0.5	ロクロ	ロクロ	粗砂含む		11	6
10-5	21	ＳＤ10	2層	須恵器	有台坏	底部	ⅠBd		7.4		0.7	ロクロ	ロクロ	粗砂含む		11	7
10-6	3	ＳＤ10	2層	須恵器	壺	体部下半	ⅠG				0.7	ケズリ	ナデ	粗砂含む		11	8
10-7	3	ＳＤ10	2層	須恵器	甕	体部	ⅠH4				0.8	平行タタキ	同心円圧痕			11	8
10-8	3	ＳＤ10	2層	須恵器	甕	肩部か	ⅠH4				0.7	平行タタキ	同心円圧痕		外面自然釉	11	8
10-9	3	ＳＤ10	2層	須恵器	甕	体部	ⅠH5				1.2	平行タタキ	押え圧痕→ハケ目			11	8
10-10	3	ＳＤ10	2層	須恵器	甕	体部下半か	ⅠH6				0.6	平行タタキ	格子状圧痕			11	8
10-11	3	SD10	2層	土師器	甕	底～体部	ⅡH1c		6.8		0.4	ケズリ	ナデ			11	6
10-12	3	ＳＤ10	2層	土師器	坏	底～体部	ⅡA1		6.2		0.5				内黒土師器	12	6
10-13	21	ＳＤ10	1層	須恵器	甕	頸部	ⅠH1				1.3	ロクロ	ロクロ	粗砂含む		12	8
10-14	21	ＳＤ10	1層	須恵器	甕	肩部	ⅠH3				1.2	平行タタキ→カキ目	同心円圧痕			12	7
10-15	3	ＳＤ10	1層	須恵器	甕	肩部	ⅠH3				1.2	平行タタキ→カキ目	同心円圧痕		10-14と同一個体か	12	7
10-16		SD10	1層	須恵器	甕	体部下半	ⅠH4				1.1	平行タタキ	同心円圧痕			12	7
10-17		ＳＤ10	1層	須恵器	甕	体部	ⅠH5				1.3	平行タタキ	押え圧痕		外自然釉	13	7
10-18	3	ＳＤ10	1層	土師器	坏	全体	ⅡA2d	14.8	5.6	4.2	0.4	ロクロ	ロクロ		赤焼土器　被熱著しい	13	6
10-19	21	ＳＤ10	1層	土師器	坏	体～口縁部	ⅡA3d	12			0.4	ロクロ	ロクロ		赤焼土器　被熱著しい	13	－
10-20	21	ＳＤ10	1層	赤焼土器	坏	底部	ⅡA3b				0.3	ロクロ	ロクロ		非常にもろい	13	7
10-21	21	ＳＤ10	1層	黒色土器	有台坏	底部	ⅡB2d		8		0.4					13	7
10-22	3	ＳＤ10	1層	土師器	甕	口縁～体部	ⅡH3	14.4			0.7	不明	ナデ			13	6
10-23	21	ＳＤ10	1層	須恵器	甕	体部	ⅠH5				1.7	平行タタキ	押え圧痕			13	8
10-24	21	ＳＤ10	1層	灰釉陶器	碗	底～体部	ⅢⅠ	7.6			0.5	ロクロ	ロクロ		釉刷毛塗り	13	6
10-25	45	ＳＤ３	2層	須恵器	坏	底部	ⅠAa		5		0.4	ロクロ	ロクロ	粗砂含む		13	7
10-26	45	SD３	2層	須恵器	坏	底部	ⅠAb		6.4		0.4	ロクロ	ロクロ	粗砂含む		13	7
10-27	29	ＳＤ6	覆土	土師器	坏	底～口縁部	ⅡA1	13	7	4	0.5	ロクロ	ミガキか不明			13	6

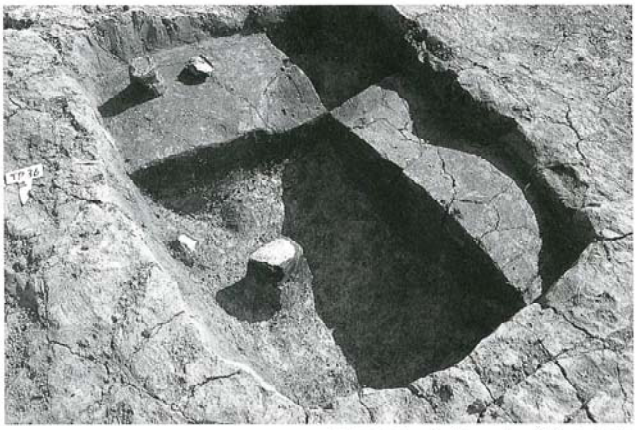
〈参考文献〉
阿部明彦・水戸弘美　1999「山形県の古代土器編年」『第25回　古代城柵官衙遺跡検討会資料』　古代城柵官衙遺跡検討会
茨木光裕　1998　「遺跡分布から見た古代交通路の復元的一考察－最上郡南半部を中心としてー」『さあべい』第15号　さあべい同人会
國井修　2002　『吉原Ⅶ遺跡　住宅団地造成工事に伴う発掘調査報告書』　山形市埋蔵文化財調査報告書第13集
齊藤孝正　1994　「東海地方の施釉陶器生産」『古代の土器研究—律令的土器様式の西・東３　施釉陶器—』　古代の土器研究会
齊藤孝正　1996　「黒笹90号窯式」「美濃の灰釉陶器」『日本土器事典』　雄山閣
齊藤孝正　2000　「越州窯青磁と緑釉・灰釉陶器」『日本の美術429』　至文堂
鈴木良仁・須賀井明子　1996　『富山２遺跡発掘調査報告書』　山形県埋蔵文化財センター調査報告書第41集
須藤英之・國井修　2002　『石田遺跡　上谷柏遺跡発掘調査報告書』　山形市埋蔵文化財調査報告書第14集
武田和宏　1998　「吉原Ⅱ遺跡の調査」『第24回　古代城柵官衙遺跡検討会資料』　古代城柵官衙遺跡検討会
武田和宏　2001　「吉原Ⅱ遺跡」『山形市埋蔵文化財発掘調査年報　－平成5～11年度－』　山形市教育委員会

図　　版

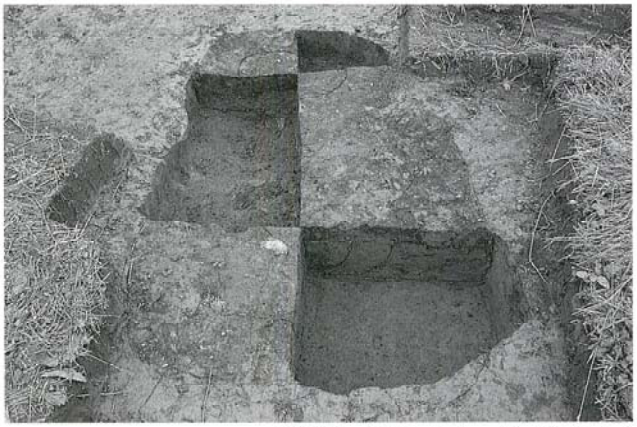
表土除去作業風景(北から)



SP36検出状況(北から)



SP36セクション(北から)

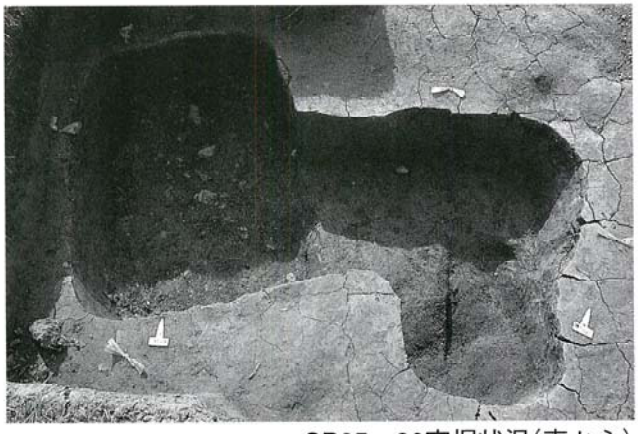


SP19・20セクション(北から)

SP19・20完掘状況(南から)

TP27検出状況(東から)

SP25・26検出状況(北から)

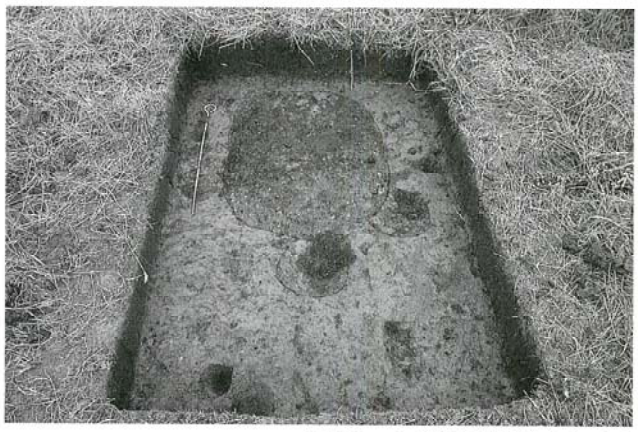


SP25・26完掘状況(東から)

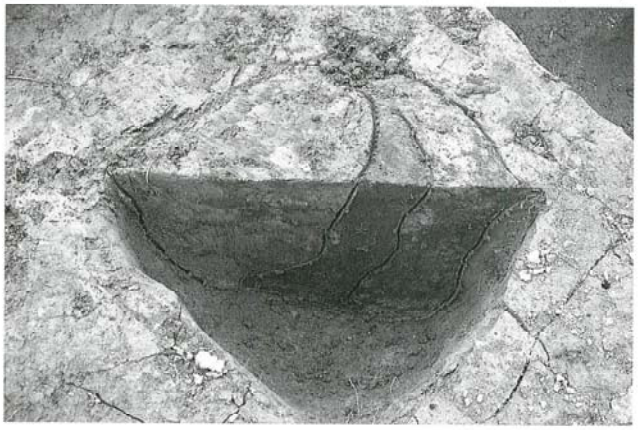
図版 2

TP17検出状況(北から)

SP29検出状況(南から)



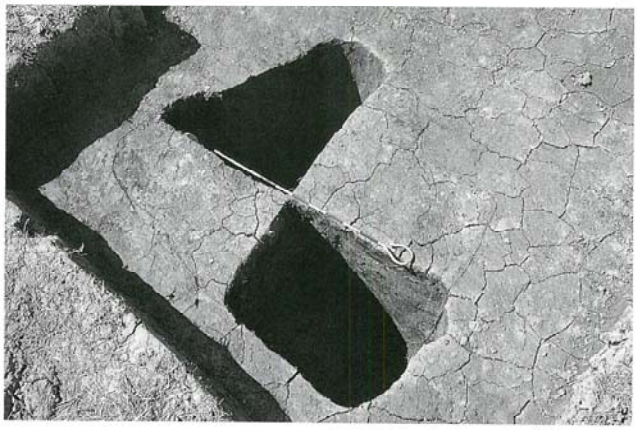
SP23・24検出状況(北から)



SP9セクション(西から)

台風による浸水状況(東から)

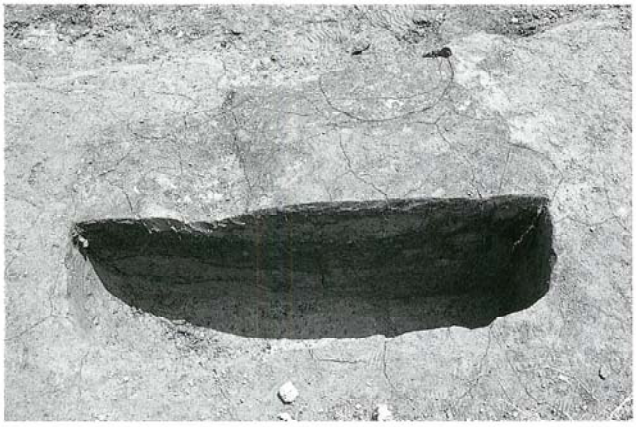
排水作業状況(北から)



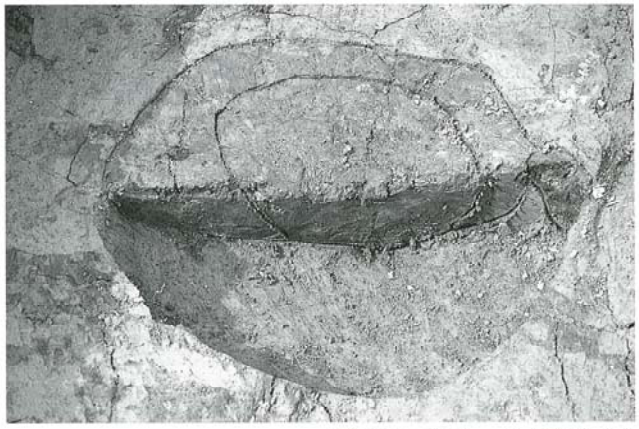
SP39セクション(南から)

SP29完掘状況(西から)

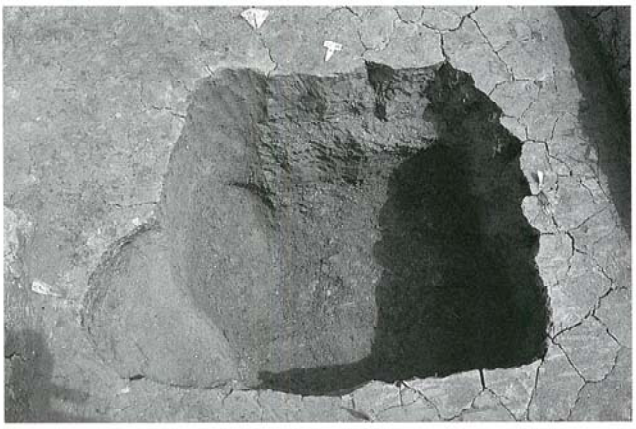
SP33完掘状況(東から)



SP31セクション(西から)

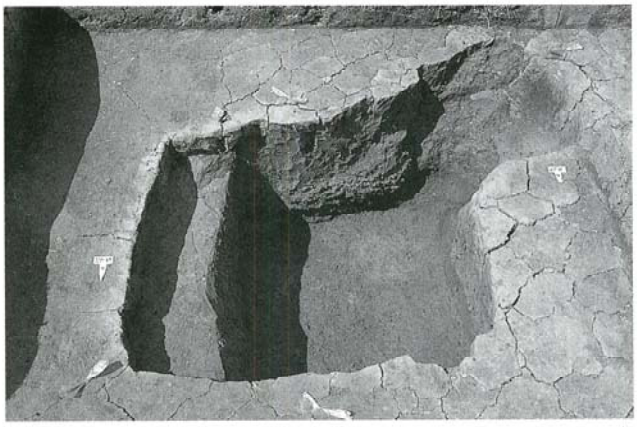


SP13セクション(南から)



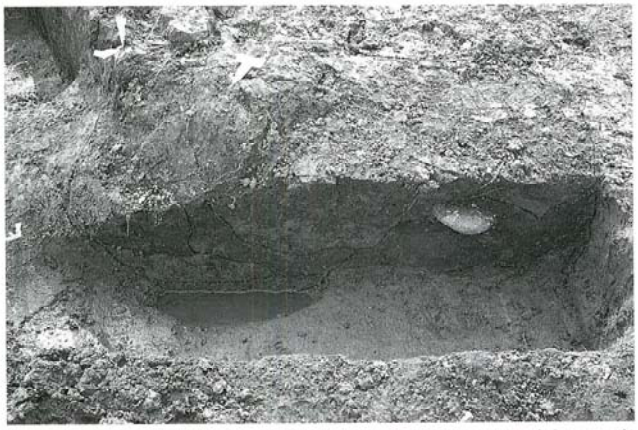
SP39完掘状況(北から)

SP37・38完掘状況(南西から)



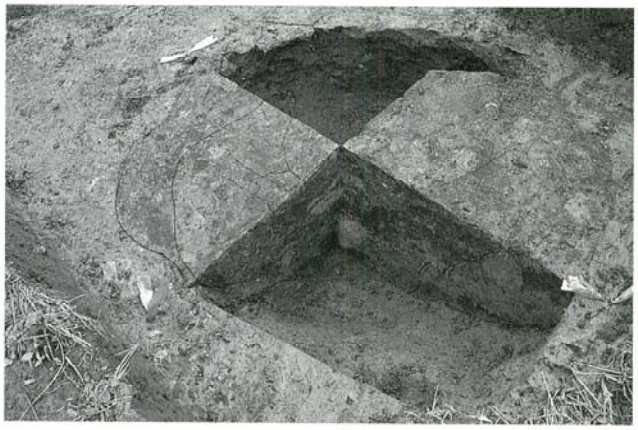
SP37・38完掘状況(南西から)

SP15セクション(南東から)

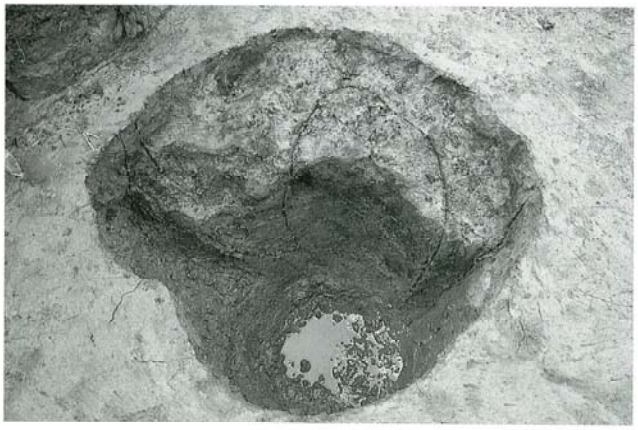


SP14セクション(東から)

図版 4



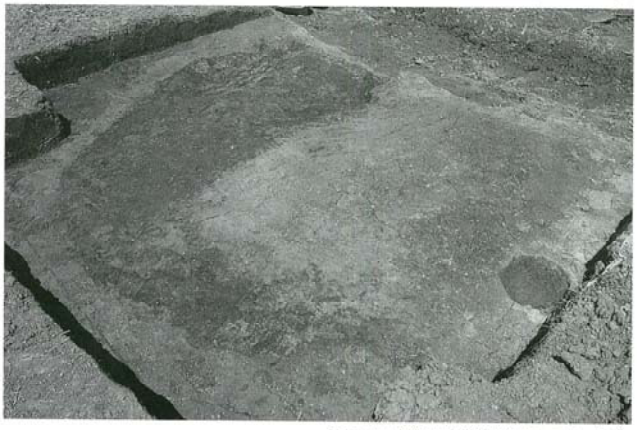
SP17セクション(西から)



SP6セクション(東から)

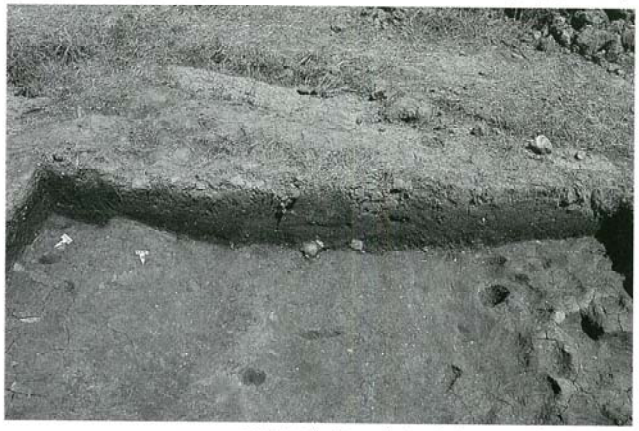
TP3・18完掘状況(南から)

SK42検出状況(南から)



SX40検出状況(南西から)

SX40完掘状況(北から)



SD10(TP21)セクション(西から)

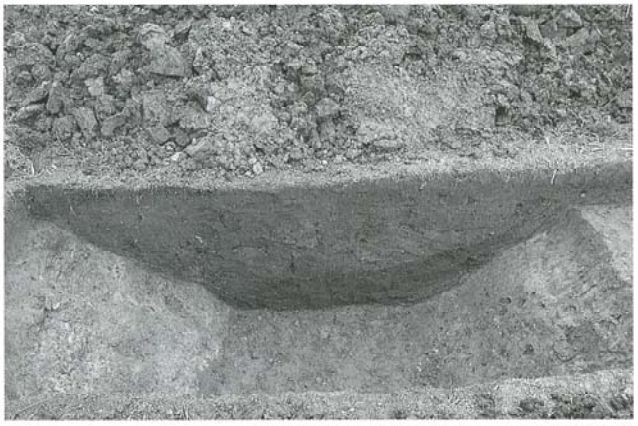
TP21完掘状況(南西から)

SD10(TP37)セクション(西から)

SD10(TP45)セクション(西から)

SD10(TP3)遺物出土状況(東から)

SD10・11(TP29)完掘状況(南から)



SD11(TP28)セクション(南から)

TP28完掘状況(西から)

SD1・SP2完掘状況(南から)

調査区全景(東から)

図版 6

42-1

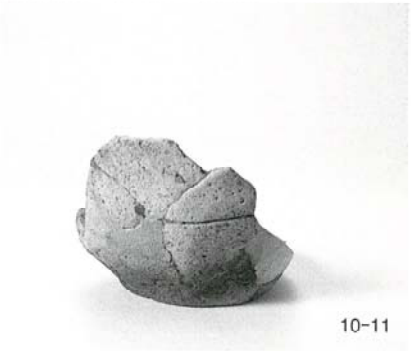
TP59-1

10-1

10-2

10-3

10-4


10-11

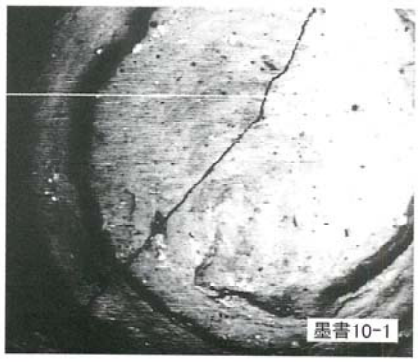
10-12

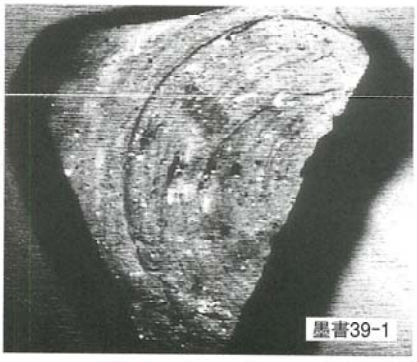
10-18

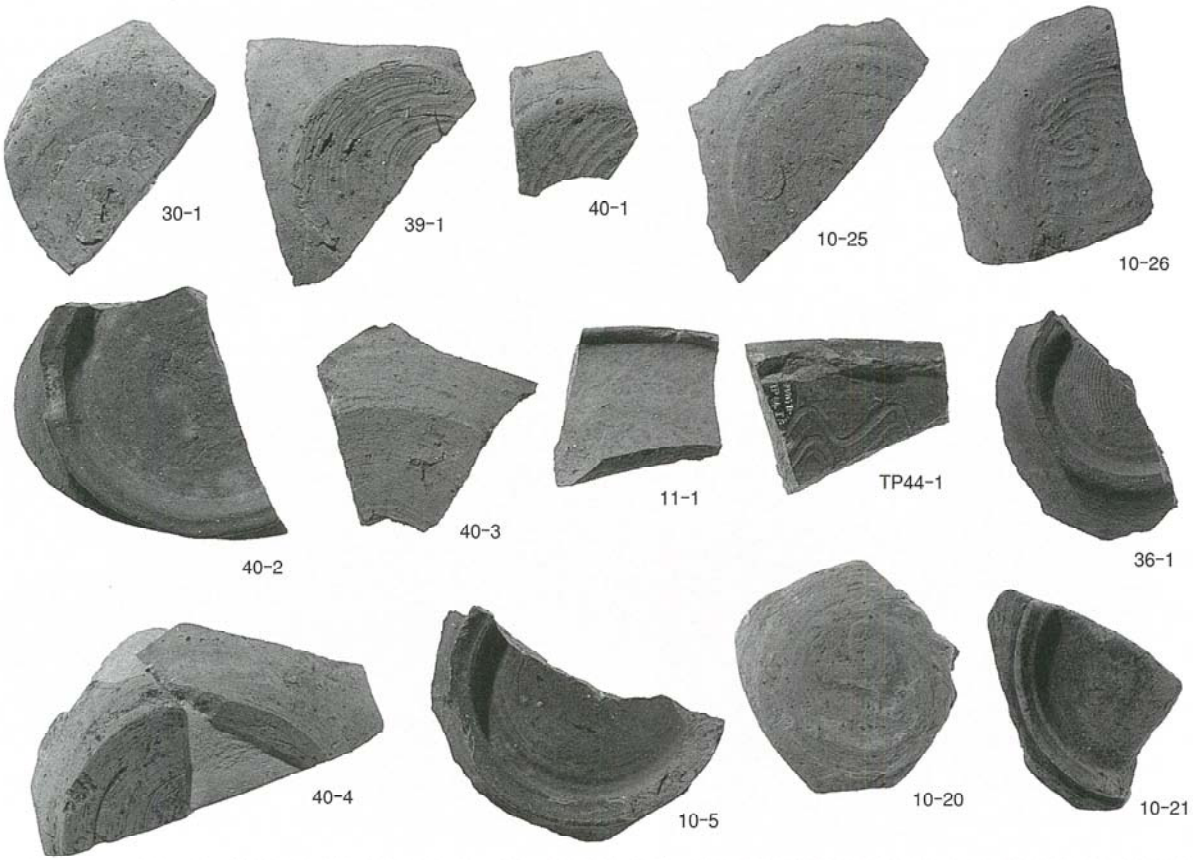
10-22

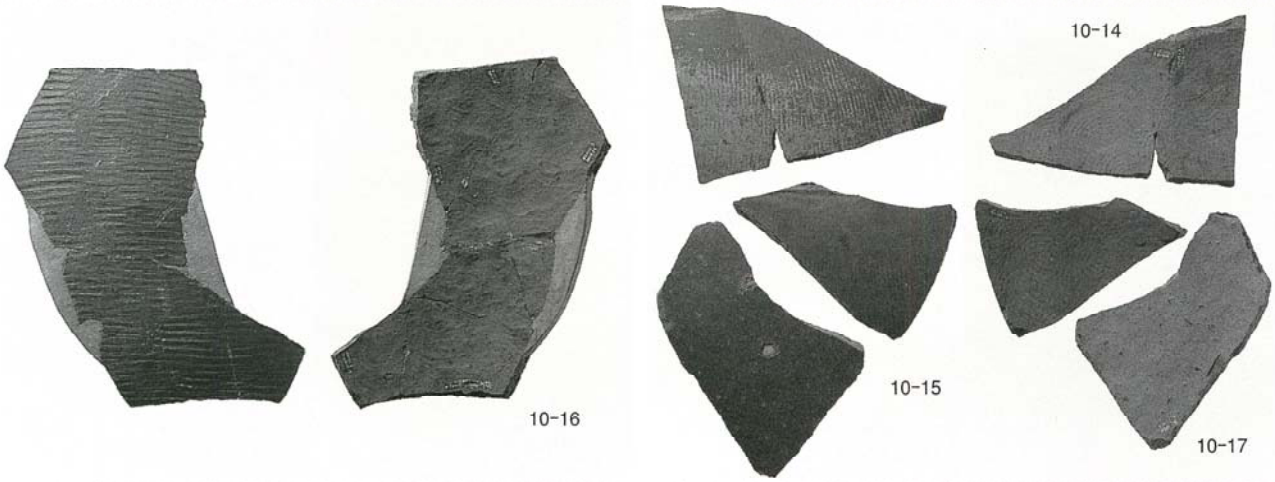
10-24

10-27

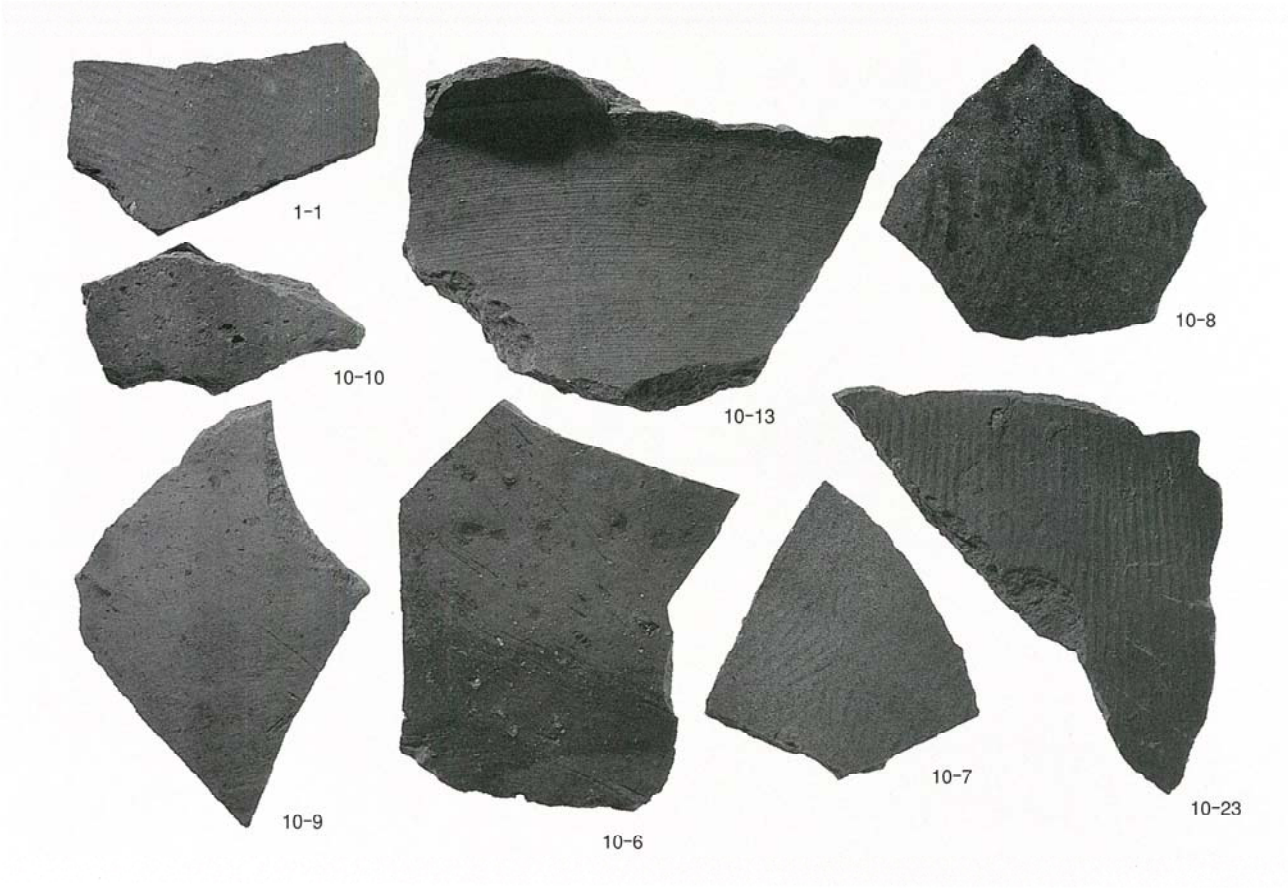

墨書10-1

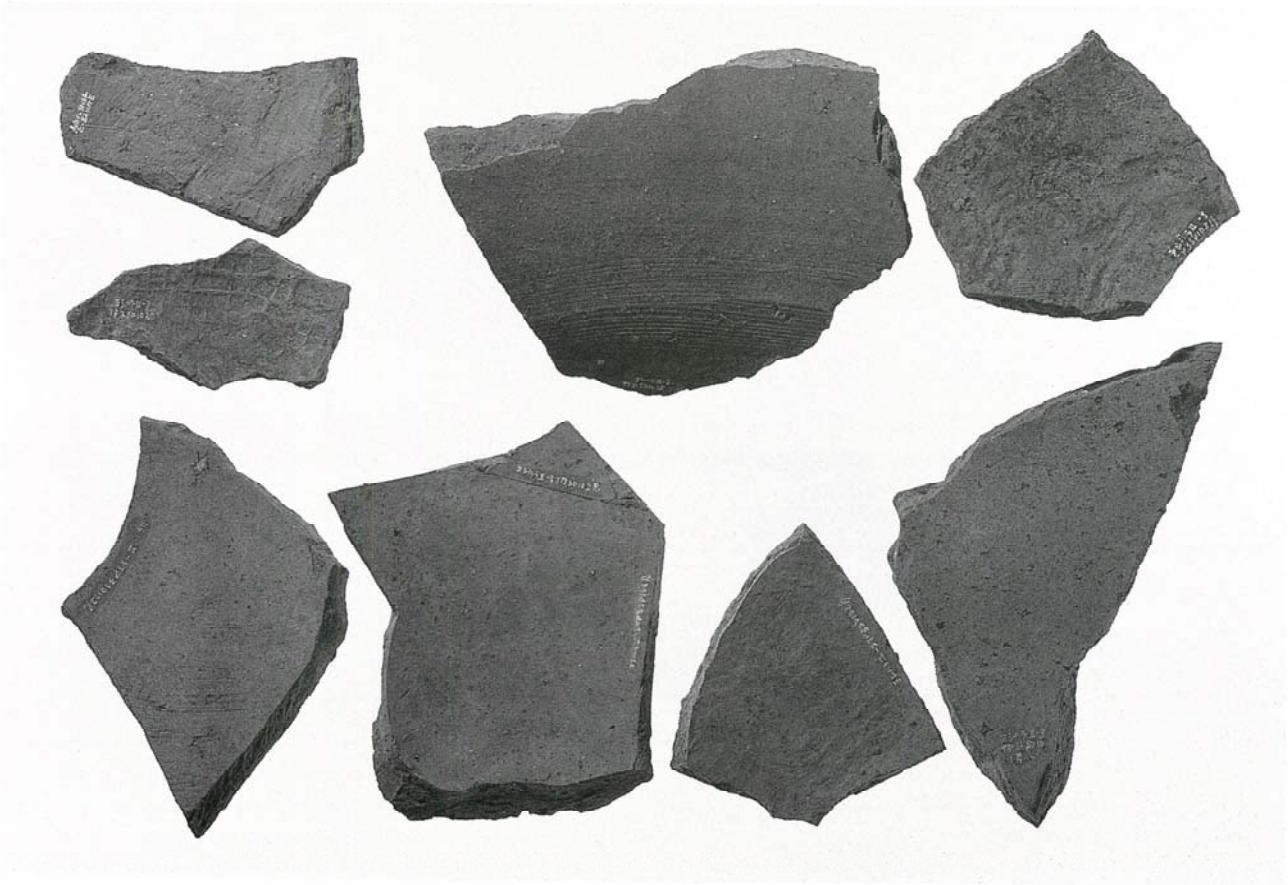

墨書39-1


30-1
39-1
40-1
10-25
10-26
40-2
40-3
11-1
TP44-1
36-1
40-4
10-5
10-20
10-21


10-14
10-16
10-15
10-17

図版 8





報告書抄録

ふりがな	よしはらにいせきだいさんじはっくつちょうさほうこくしょ
書名	吉原Ⅱ遺跡第3次発掘調査報告書
副書名	
巻次	
シリーズ名	山形県山形市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第16集
編著者名	須藤英之
編集機関	山形市教育委員会
所在地	〒990-8540　山形県山形市旅篭町二丁目3番25号　TEL.023-641-1212
発行年月日	2003年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
吉原Ⅱ（よしはらに）	山形県（やまがたけん） 山形市（やまがたし） 大字（おおあざ） 三つ江	6201	平成8年度登録	38度 13分 37秒	140度 18分 50秒	20020627 ～ 20020731	184㎡	店舗建設事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
吉原Ⅱ	集落跡	平安時代	柱穴36基 溝跡3条 土杭1基 性格不明遺構1基	土師器（坏・有台坏・甕） 須恵器（坏・有台坏・蓋・甕・壺） 灰釉陶器（碗）	
					総出土箱数8箱

山形県山形市埋蔵文化財調査報告書第16集

吉原Ⅱ遺跡第3次発掘調査報告書

2003年3月31日　発行

発行　株式会社ニラク
〒963-8811　福島県郡山市駅前二丁目2番2号
朝日生命郡山センタービル4階　電話　024－927－7111
山形市教育委員会
〒990-8540　山形県山形市旅篭町二丁目3番25号　電話　023－641－1212
印刷　田宮印刷株式会社
〒990-8540　山形県山形市立谷川三丁目1410-1　電話　023－686－6111